

平成19年度

南房総市 男女共同参画 市民意識調査 報告書

平成20年3月

南 房 総 市

目次

調査の概要	
1 調査の趣旨	1
2 調査内容	1
3 調査設計	1
4 回収結果	1
5 調査結果の見方	1
6 他調査との比較について	2
調査の結果	
1 回答者のプロフィール	
(1) 性別	3
(2) 年齢構成	3
(3) 地区構成	3
(4) 世帯構成	4
(5) 子どもの有無	4
(6) 共働き状況	5
(7) 職業構成	5
2 男女平等に関する考え方	
(1) 男女の平等意識	6
(2) 平等になるために重要なこと	16
(3) 「男は仕事、女は家庭」の考え方	19
3 家庭生活と職業	
(1) 家事等の役割分担	21
(2) 理想的な家事等の役割分担	23
4 少子・高齢化	
(1) 少子・高齢化	34
5 教育	
(1) 子どもの教育における男女平等の意識	37
6 女性に対する人権問題	
(1) 女性の人権が侵害されていると感じること	40
(2) セクシュアル・ハラスメントを受けた経験	41
7 社会活動等への参画	
(1) 審議会等への女性委員の登用	43
(2) 地域活動への参画状況	45
8 男女共同参画に関する用語の周知度	
(1) 用語の周知度	47
9 南房総市の施策	
(1) 男女共同参画社会へ向けての取組み	49
自由記述	51
参考資料	
南房総市男女共同参画市民意識調査 調査票	56

調査の概要

1 調査の趣旨

この調査は、南房総市における男女共同参画施策を推進する上での基礎資料とするために初めて実施し、当市の男女共同参画の意識、実態について把握し、その問題点を解析し、課題を明確にすることを目的とする。

2 調査内容

- (1) 男女平等に関する考え方
- (2) 家庭生活と職業
- (3) 少子・高齢化
- (4) 教育
- (5) 女性に対する人権問題
- (6) 社会活動等への参画
- (7) 男女共同参画に関する用語の周知度
- (8) 南房総市の施策
- (9) 属性
- (10) 自由記述

3 調査設計

- (1) 調査地域 南房総市全域
- (2) 調査対象 南房総市在住の満20歳以上の男女 1,200人
- (3) 標本抽出法 住民基本台帳(平成19年9月1日現在)に基づく層化無作為抽出法
- (4) 調査方法 郵送により調査票、返信用封筒を配付し、郵送により回収
- (5) 調査期間 平成19年10月1日～10月19日

【層化】

市内を次の7地区に分類

富浦地区、富山地区、三芳地区、白浜地区、千倉地区、丸山地区、和田地区

4 回収結果

有効回答数 509件(42.4%)

5 調査結果の見方

- (1) 結果はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、数値の合計が100%にならないことや、個々の比率の合計とその小計の数値が一致しないことがある。
- (2) 数値やグラフ中の()内の数値は回答者総数(又は、分類別の該当者数)を示し、回答比率は、これを100%として算出した。
- (3) 1人の対象者に2つ以上の回答を認めた設問では、百分率(%)の合計は、100%を超える場合がある。

- (4) 分析の軸（縦軸）としたプロフィールや設問は、無回答を除いている場合もあるため、各プロフィールの基数の合計が全体と一致しない場合がある。
また、分析によっては、必要な選択肢を抽出して使用したり、複数の選択肢をまとめて使用しているところもある。
- (5) グラフや表のタイトルなどは、なるべく調査票そのままの表現を用いているが、スペースなどの関係から一部省略した表現としている箇所がある。

6 他調査との比較について

市民意識調査の分析にあたり、他調査との比較を行っている。使用した資料の出典は以下の通りである。なお、「比較分析」の数字は、比較した問番号である。

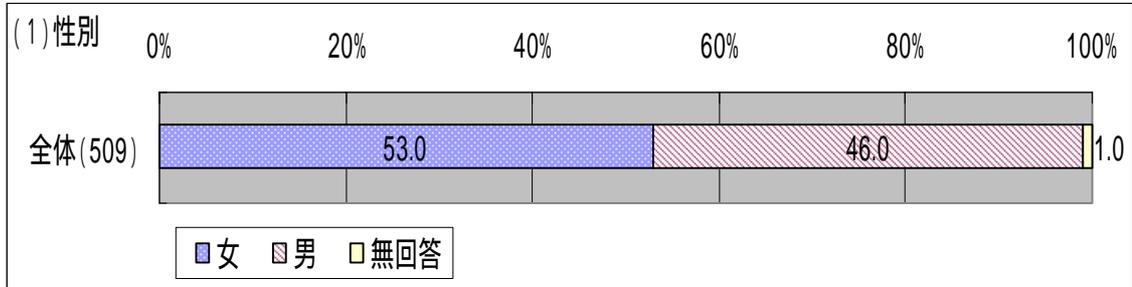
千葉県調査：「男女共同参画社会の実現に向けての県民意識調査」		比較分析：問1・3・4・7・8・12・16・20・21
対 象	千葉県在住の満20歳以上の男女 2,500人	
調査方法	郵送配布・郵送回収	
調査時期	平成16年9月13日～9月30日	
回収状況	有効回収率37.9%	

全国調査：「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府大臣官房政府広報室）		比較分析：問10
対 象	全国20歳以上の者 5,000人	
調査方法	調査員による個別面接聴取	
調査時期	平成16年11月25日～12月5日	
回収状況	有効回収率70.0%（男性65.0% 女性75.0%）	

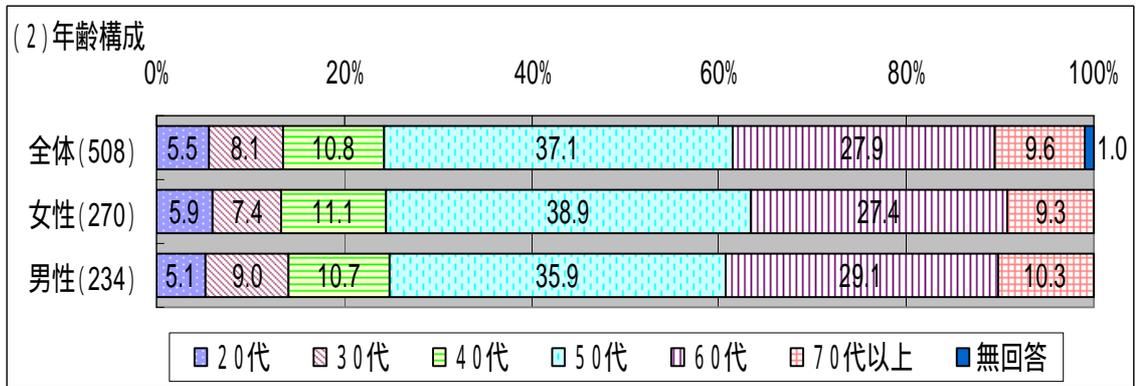
調査の結果

1. 回答者のプロフィール

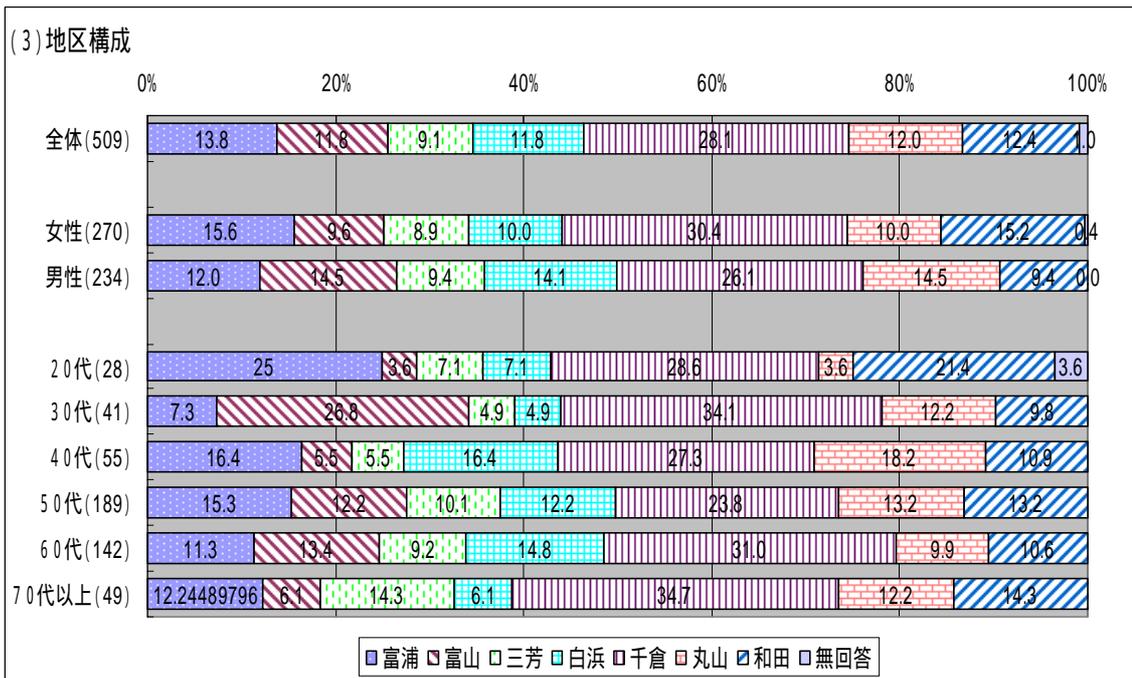
(1) 性別



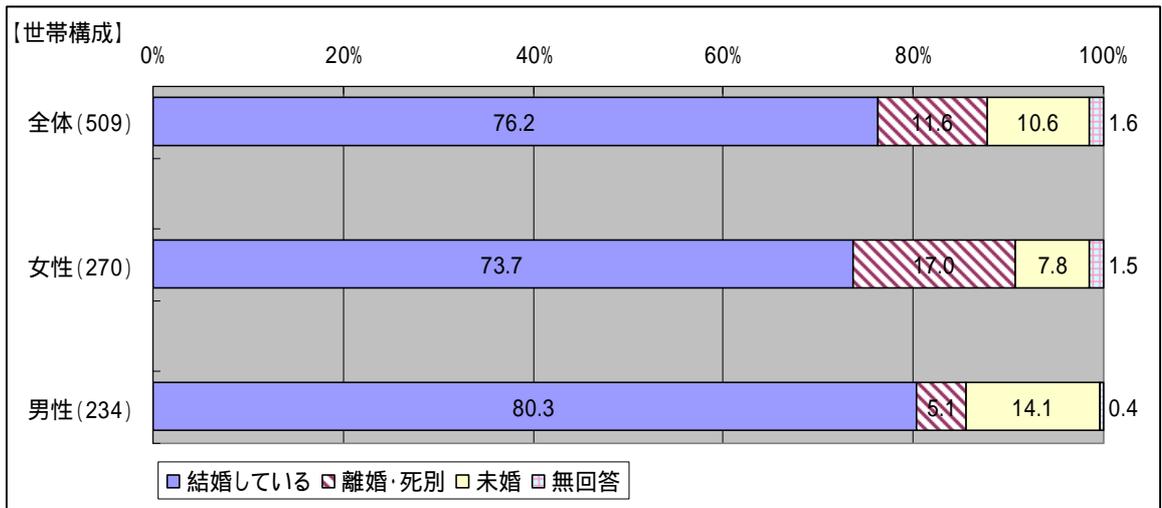
(2) 年齢構成



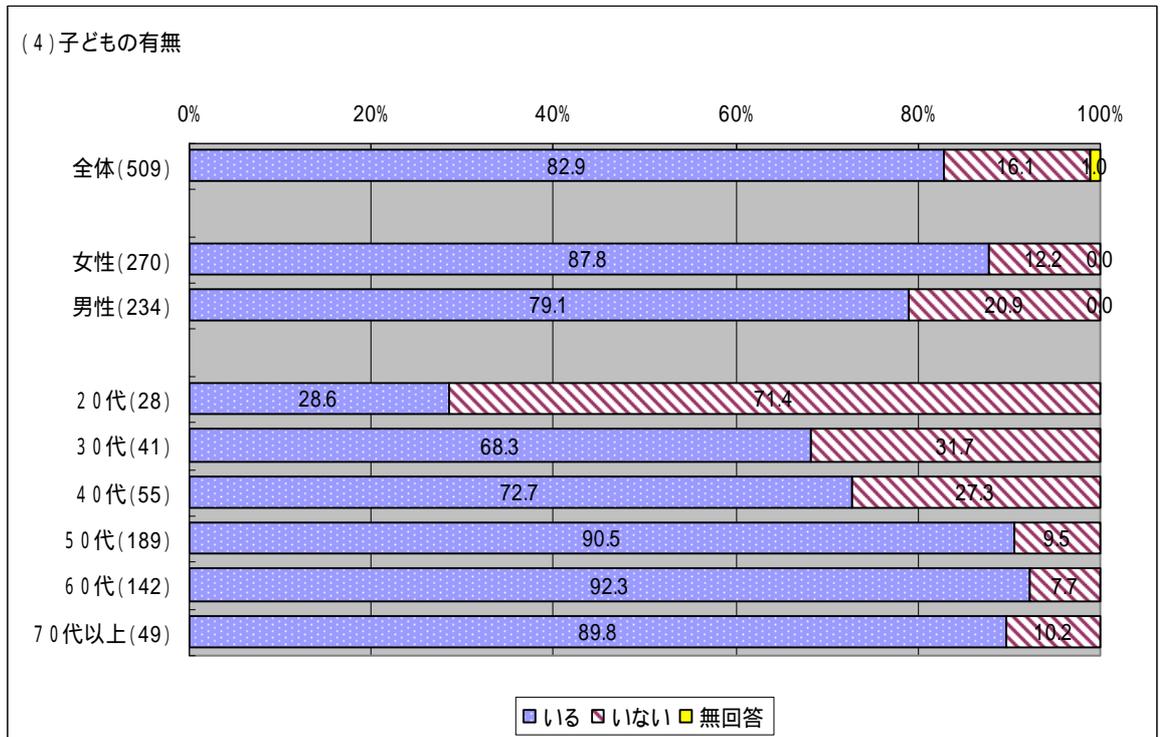
(3) 地区構成



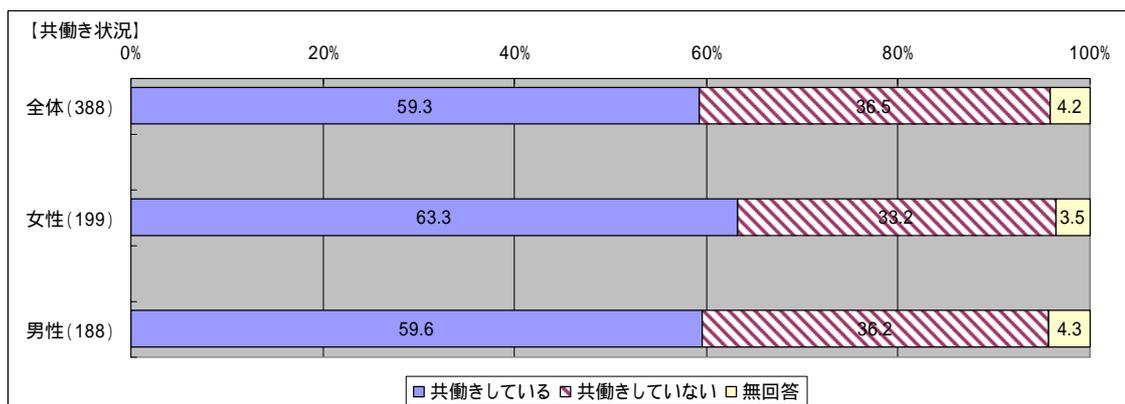
(4) 世帯構成



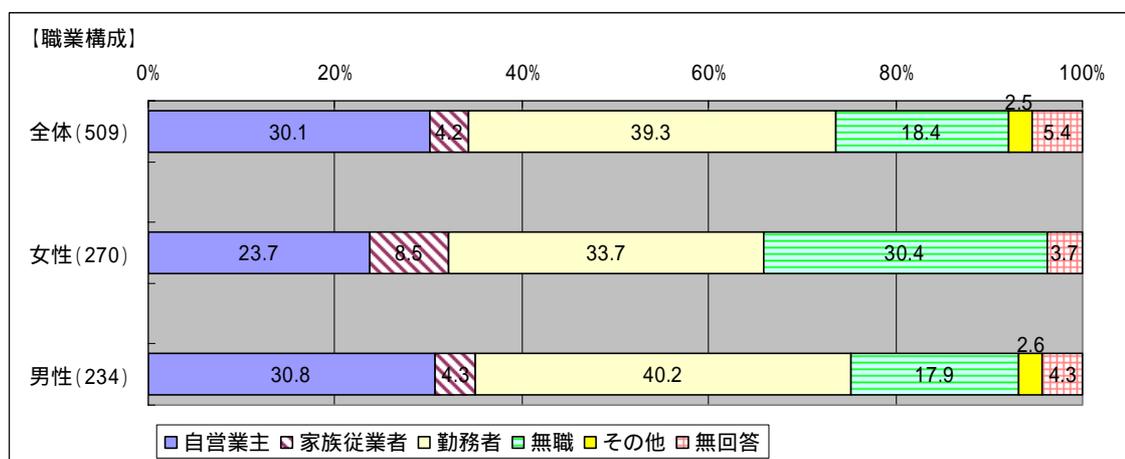
(5) 子どもの有無



(6) 共働き状況



(7) 職業構成

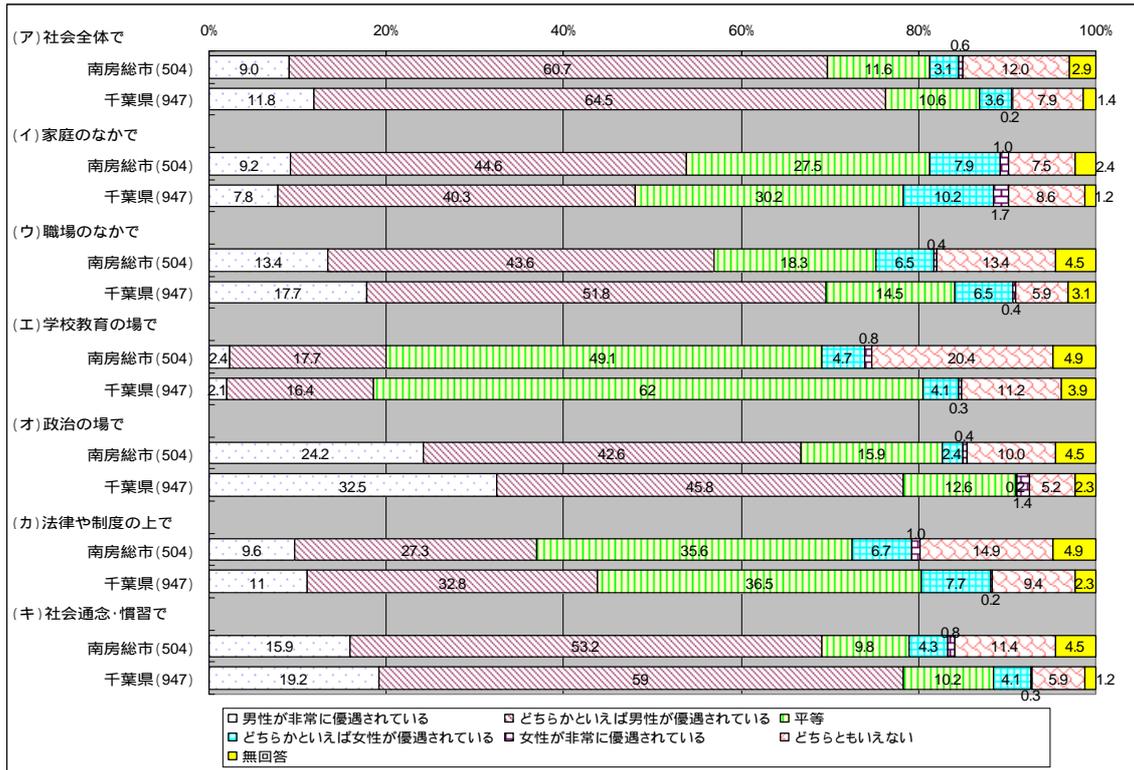


2. 男女平等に関する考え方

(1) 男女の平等意識

問1. あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次の(ア)～(キ)のそれぞれについてあなたの考えに最も近いものを1つずつ選んでください。

(男性優遇)の割合が高いのは、特に「社会全体で」、「政治の場で」、「社会通念・慣習で」においてである。



「社会全体で」、「家庭のなかで」、「職場のなかで」、「学校教育の場で」、「政治の場で」、「法律や制度の上で」、「社会通念・慣習で」の7分野について、男女の地位が平等になっているかどうかを聞いたところ、「学校教育の場で」については、「平等」と回答している割合が半数近くとなっているものの、全ての分野で《男性優遇》と回答している割合が高くなっている。特に「社会全体で」、「政治の場で」、「社会通念・習慣で」は、6割以上の方が《男性優遇》と回答している。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、若干の差はあるものの、すべての分野で千葉県とほぼ同じ意識の傾向がある。しかし、「社会全体で」、「職場のなかで」、「政治の場で」、「法律や制度の上で」、「社会通念・慣習で」の男女の地位が平等になっているかでは、千葉県の方が《男性優遇》と回答している割合が低くなっている。また、「社会全体で」、「職場のなかで」、「政治の場で」は、南房総市の方が『平等』と回答している割合が高くなっている。

- ・《男性優遇》 = 「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計
- ・《女性優遇》 = 「どちらかといえば女性が優遇されている」「女性が非常に優遇されている」の合計

（ア）社会全体で

女性の74.8%、男性の64.5%が《男性優遇》と回答しており、男女ともに不平等と感じる割合が高くなっているが、女性の方が男性より10.3ポイント高い傾向にある。

【年代別】

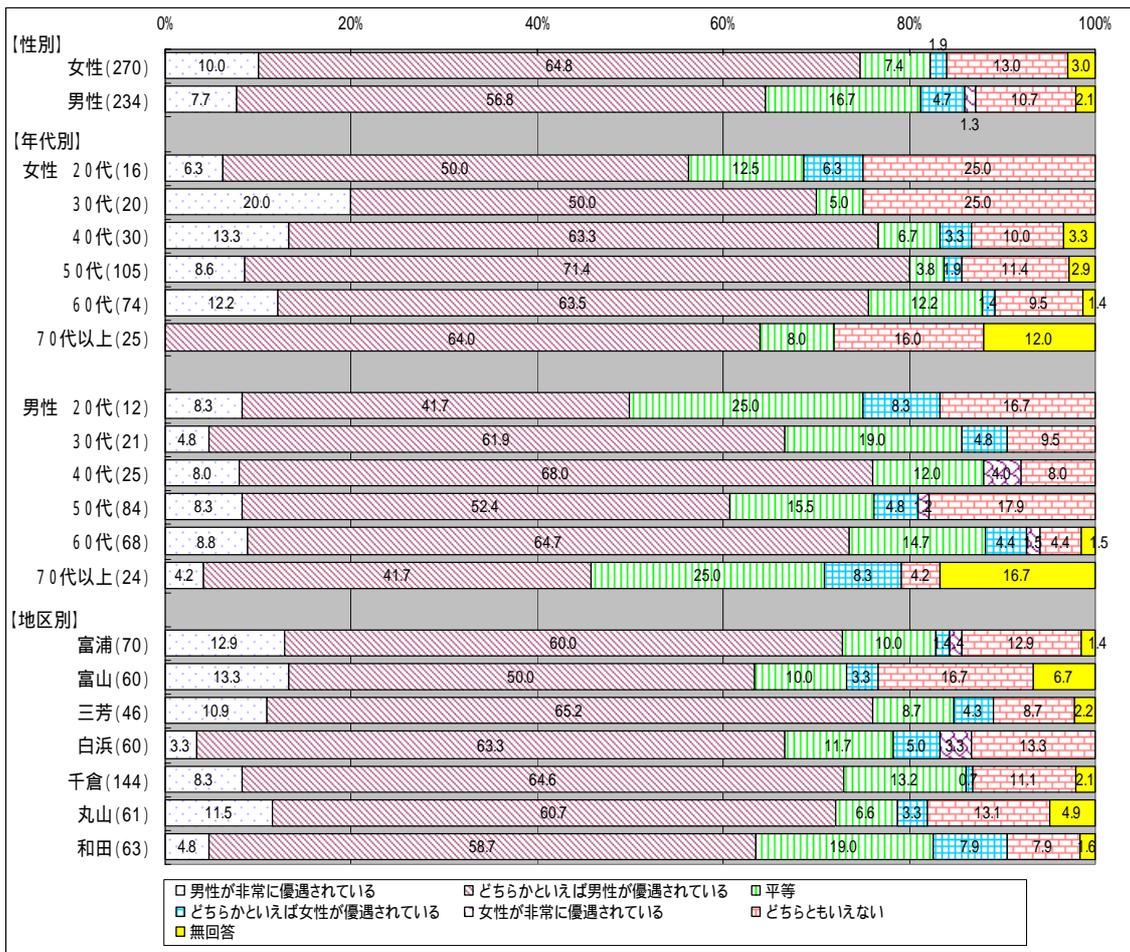
全体を通して《男性優遇》の割合が高く、中でも女性の50代(80.0%)、40代(76.6%)が高くなっているのに対し、男性の70代が45.9%と最も低く、次いで男性の20代が50.0%となっており、男女の差が大きくなっている。

女性は30～60代で7割以上が《男性優遇》と感じているが、一方、男性は70代を除き《男性優遇》と感じている。

【地区別】

全体を通じて《男性優遇》の割合が高くなっており、「富山」、「白浜」、「和田」以外の地区では、70%以上の人々が《男性優遇》と回答している。

また、「和田」地区では、《平等》と回答している割合が19.0%であり、最も高くなっている。



(イ) 家庭のなかで

男女ともに《男性優遇》が『平等』の割合を上回っているが、その割合にはかなりの差があり、女性の61.1%に対して、男性は45.8にとどまっている。逆に、『平等』は女性の20.4%に対し、男性は36.3%となっている。

【年代別】

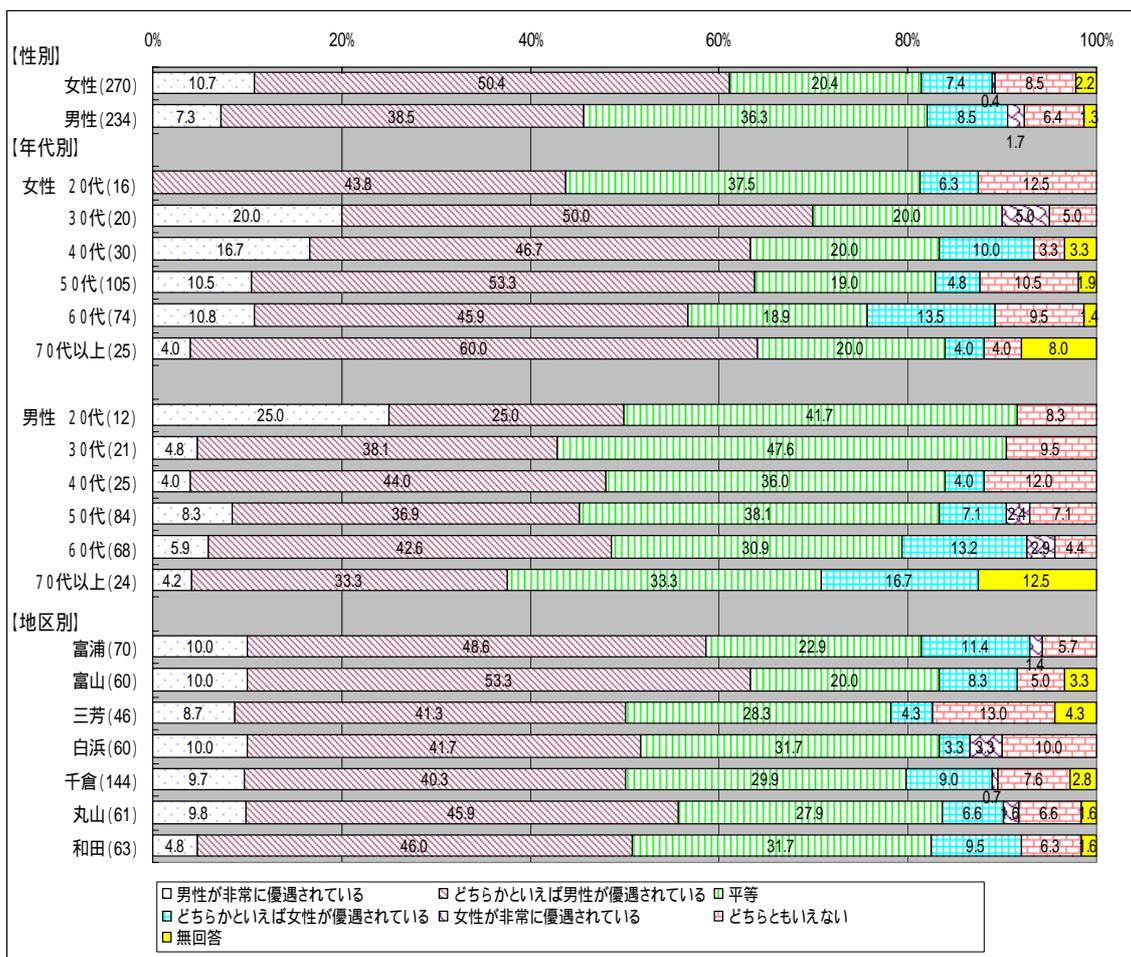
女性では、20代の43.8%を除き各年代で過半数以上が《男性優遇》と回答しており、中でも30代(70.0%)で不平等感が最も強くなっている。

また、男性の30代では、『平等』が《男性優遇》よりも高くなっている。

【地区別】

《男性優遇》と回答している割合は、「富山」(63.3%)が他の地区に比べ、最も高く、全地区とも50%以上となっている。

また、『平等』と回答している割合は、「白浜」、「和田」が最も高く31.7%であるのに対し、その他の5地区では、30%を下回り、中でも「富山」は最も低く20.0%となっている。



（ウ）職場のなかで

女性の56.3%、男性の58.1%が《男性優遇》と回答しており、女性の方が1.8%低くなっているものの、『平等』と回答している割合は、女性13.0%、男性24.8%と、女性の方が11.8ポイントも下回っている。

【年代別】

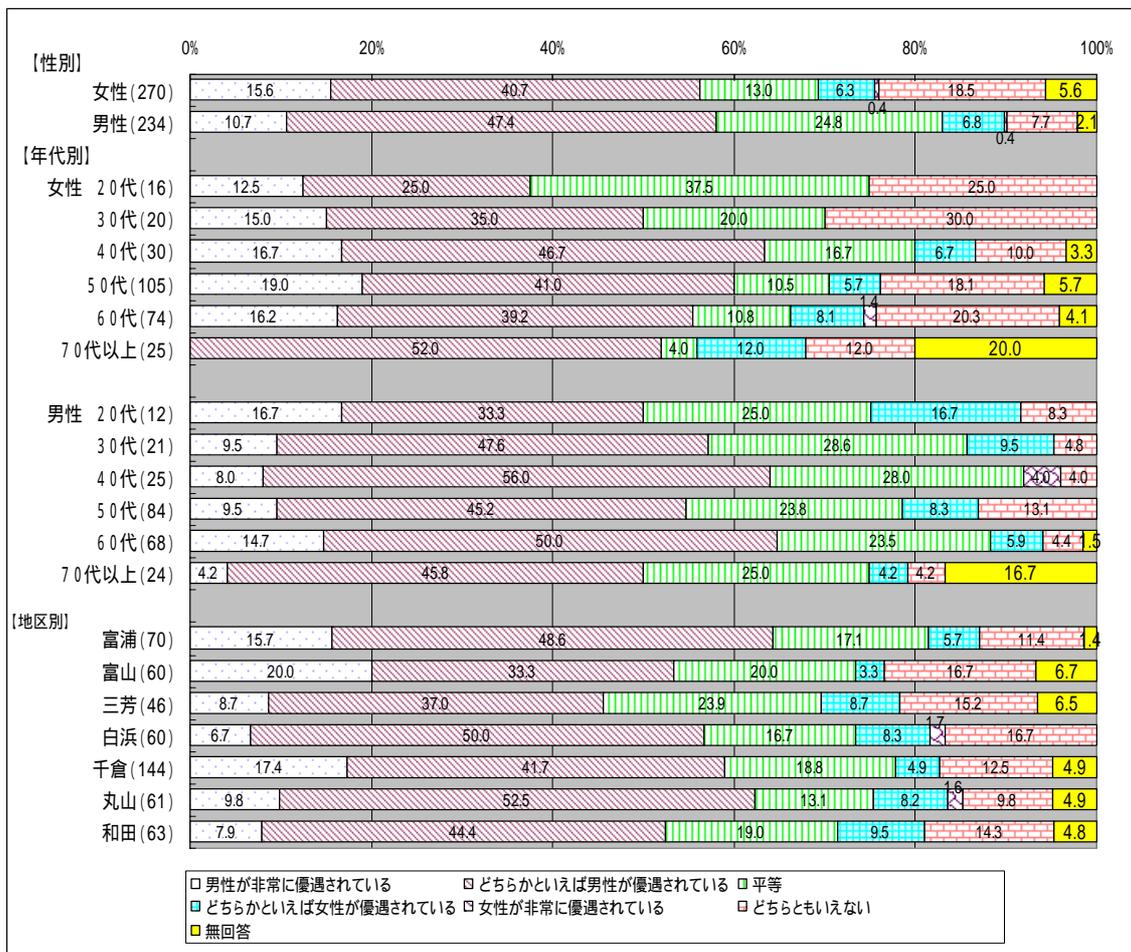
男性は、すべての年代で、《男性優遇》と回答している割合は半数以上である。女性は、20代を除く全ての年代で《男性優遇》と回答している割合は、半数以上である。特に男性の40代、60代は、64%以上になり高くなっている。

また、『平等』と回答している割合は、女性の20代（37.5%）で最も高く、年をとるにつれ低い傾向にある。

【地区別】

【三芳】を除くすべての地区で《男性優遇》と回答している割合が高いが、特に「富浦」（64.3%）「丸山」（62.3%）が最も高くなっている。

また、『平等』と回答している割合は、「三芳」（23.9%）、「富山」（20.0%）と2割を超え高くなっている。



(エ) 学校教育の場で

この項目のみ、『平等』が女性42.6%、男性57.3%となっており、《男性優遇》(女性24.8%、男性15.0%)をそれぞれ大きく上回っている。

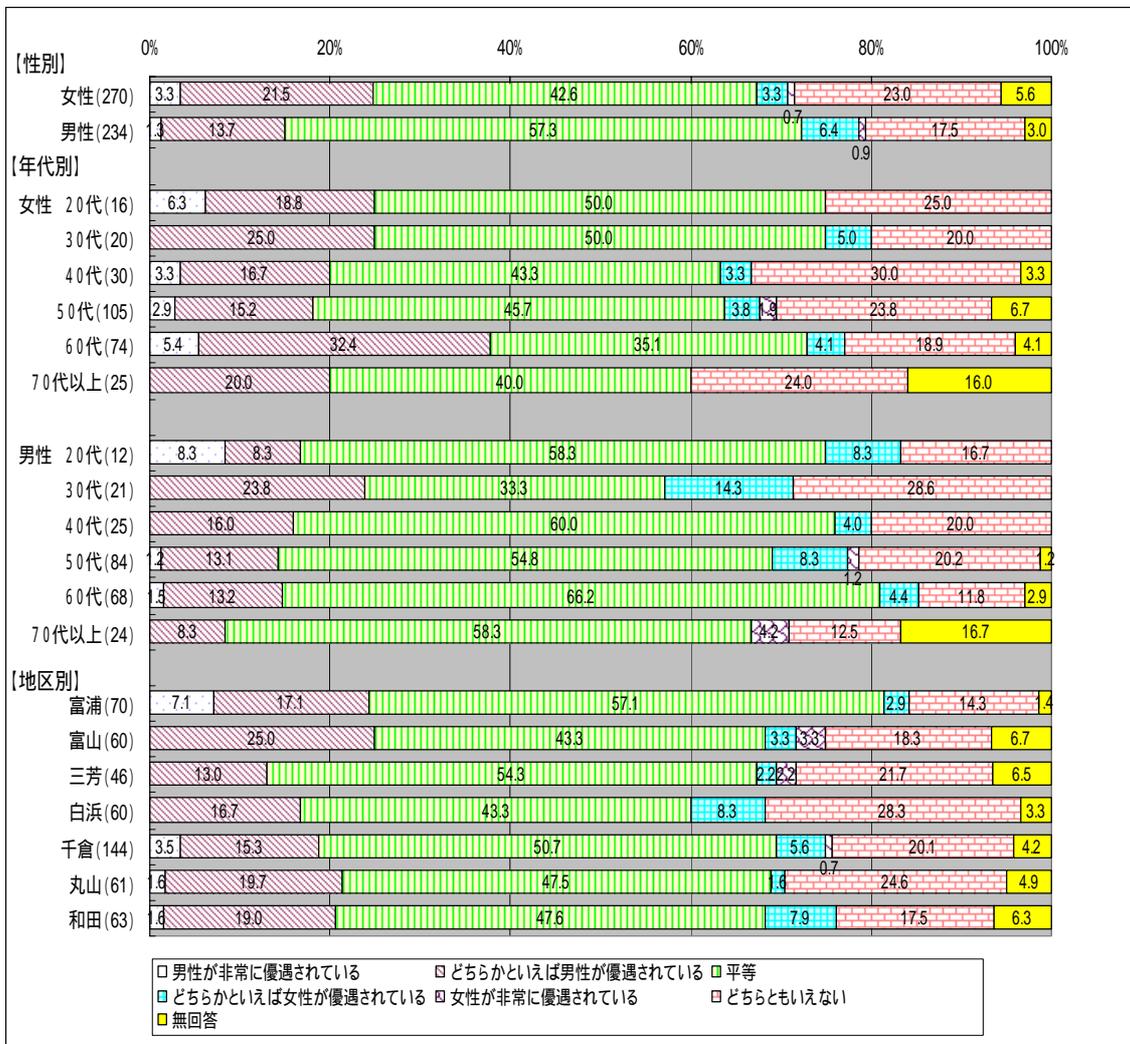
【年代別】

女性40代、50代、60代、70代以上、男性30代を除き、『平等』が過半数を占めている。特に、男性の60代が66.2%と、他の年代に比べ高くなっている。

【地区別】

「富浦」、「三芳」、「千倉」では、『平等』が50%以上となっており、他の地区でも、40%以上と『平等』と考える割合は高くなっている。

また、《男性優遇》と回答している割合は「富山」の25.0%が最高で各地区とも『平等』の割合より大きく下回っている。



（オ）政治の場で

女性では71.8%が《男性優遇》と回答しているのに対し、男性は61.6%となっている。また、『平等』は女性10.4%であるのに対し、男性では22.6%と2倍以上になっており、男女間に意識の差がみられる。

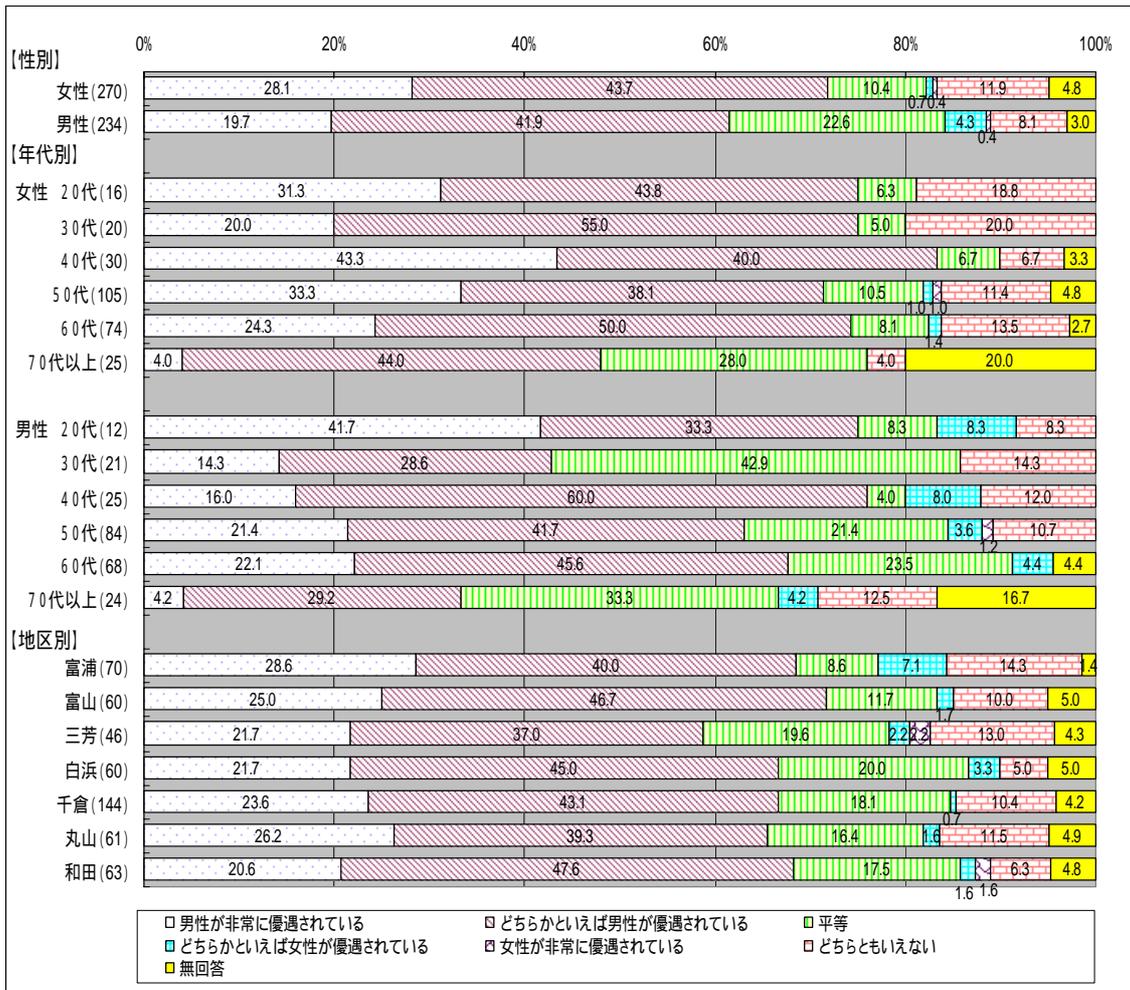
【年代別】

女性70代以上、男性30代、70代以上を除くすべての年代で、《男性優遇》と回答している割合が6割を超えている。

また、《男性優遇》はすべての年代で、女性よりも男性の方が低くなっている。

【地区別】

すべての地区で、《男性優遇》と回答している割合が過半数を超えている。「富山」が最も高く71.7%であるのに対し、「三芳」は58.7%と最も低く、その差は13ポイントであり、地区により意識の差がみられる。



（カ）法律や制度の上で

女性では《男性優遇》と回答している割合が45.2%であるのに対し、男性では27.8%となっている。また、『平等』は女性が26.3%となっているのに対し、男性では47.0%となっており、男女間で全く逆の意識があることがわかる。

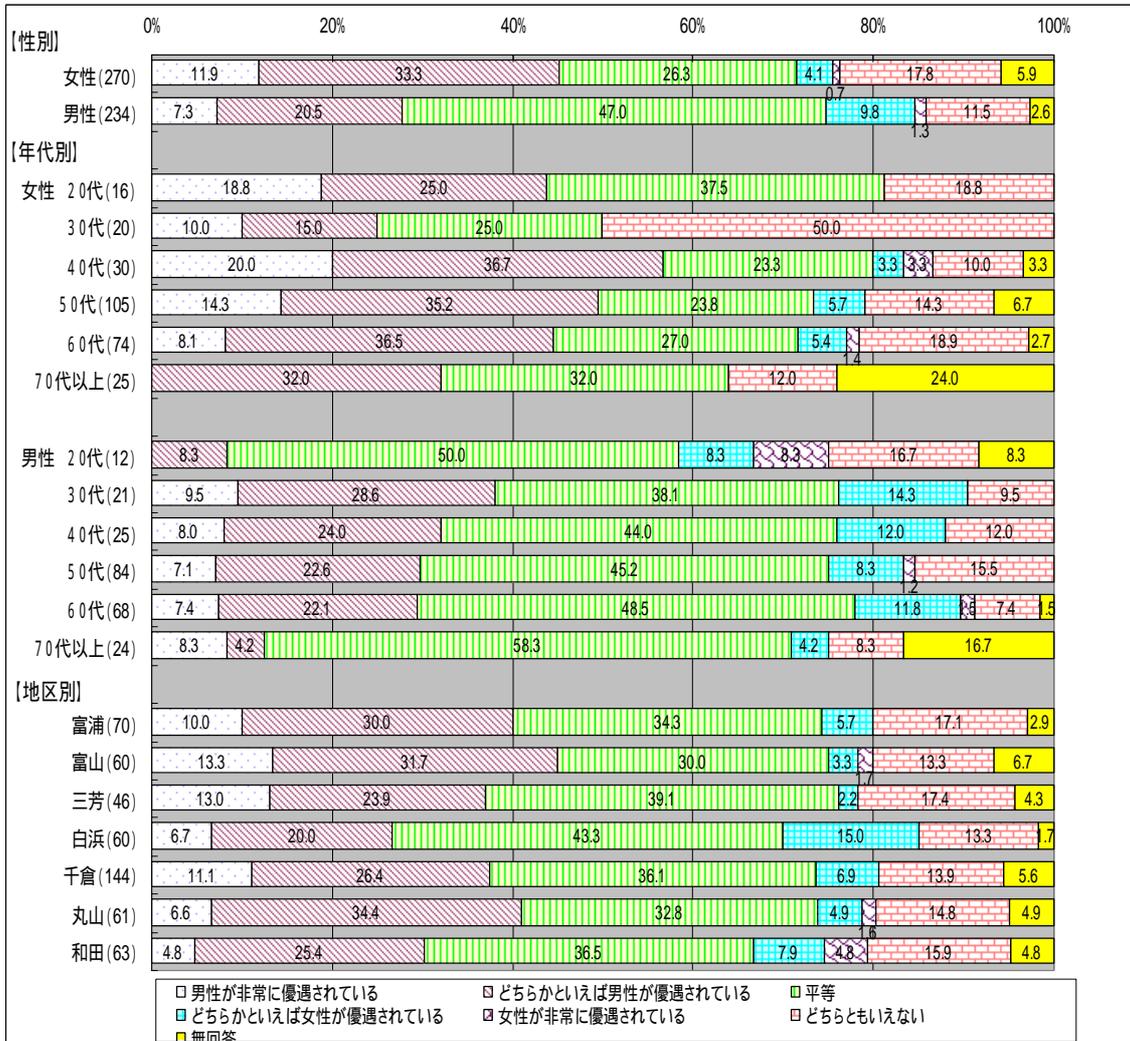
【年代別】

女性の40代で《男性優遇》と回答している割合が最も高くなっている。

一方、男性は30代のみ《男性優遇》と『平等』が同割合となるが、その他全ての地区で『平等』と回答している割合が最も高くなっている。

【地区別】

地区により意識の差が異なり、「白浜」（43.3%）で『平等』と回答した割合が最も高くなっているのに対し、それ以外の地区は《男性優遇》と回答した割合が高くなっている。



（キ）社会通念・慣習で

女性の74.1%、男性の64.1%が《男性優遇》と回答しており、男女とも不平等と感じている割合が高くなっている。

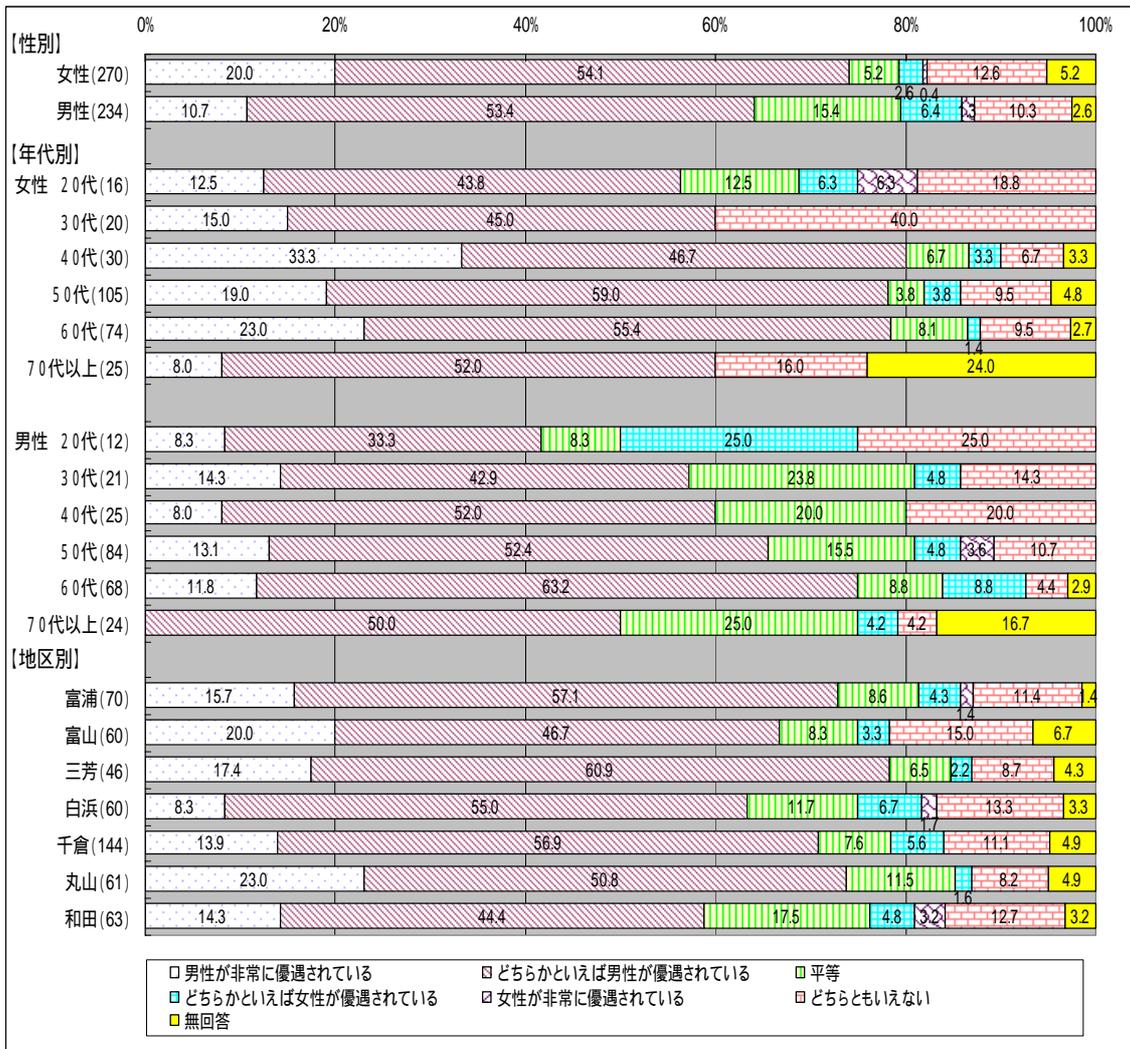
【年代別】

女性の40代(80.0%)、50代(78.0%)、60代(78.4%)、及び男性の60代(75.0%)で《男性優遇》と回答している割合が、7割以上と高くなっている。

また、『平等』と回答している割合は、男性の20代、70代以上(25.0%)で最も高くなっている。

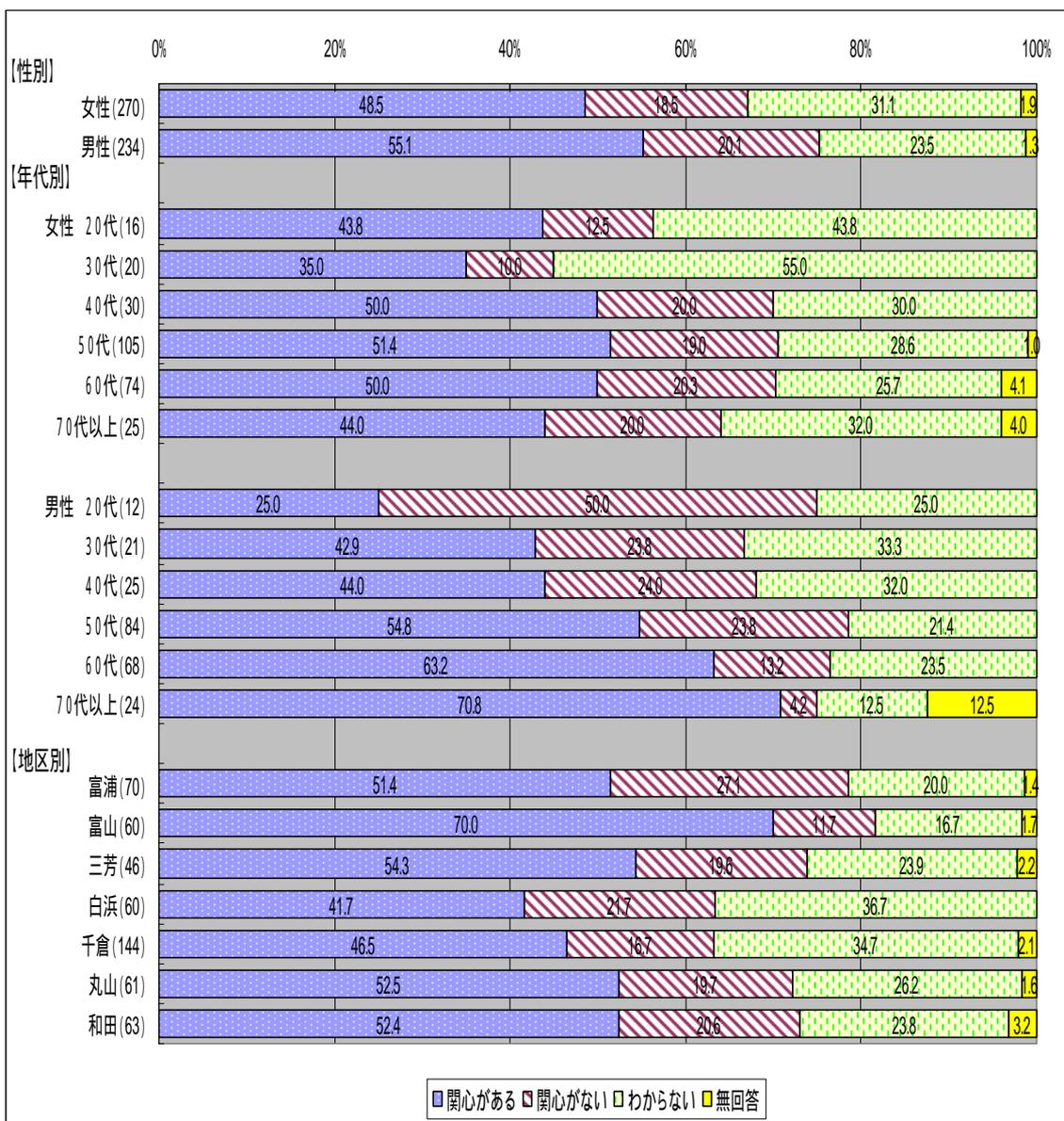
【地区別】

すべての地区で、半数以上が《男性優遇》と回答している。しかし、「三芳」で《男性優遇》と回答している割合が78.3%と最も高いのに対し、「和田」は58.7%と最も低く、その差は19.6ポイントとなっている。



問2．国や地方自治体では、男女平等や男女共同参画を推進していこうという動きがありますが、あなたは、こうした動きに関心がありますか。次の中から1つ選んでください。

国や地方自治体の男女平等や男女共同参画を推進していこうという動きに関心がある人の割合は半数を超えており、男女平等に対する関心の高さが伺える。



国や地方自治体の男女平等や男女共同参画を推進していこうという動きに『関心がある』と回答している割合は女性48.5%、男性55.1%であり、男女ともに『関心がない』と回答した割合を大きく上回っている。

また、『関心がない』と回答している割合は、女性18.5%であるのに対し、男性20.1%となっており、男性の方が1.6%高くなっている。

【年代別】

男性20代を除き、男女ともすべての年代で、『関心がある』と回答している割合が、『関心がない』を上回っている。男性20代については、『関心がない』と回答している割合が50.0%となり、『関心がある』と回答している割合(25.0%)の2倍となっている。また、他の年代で次いで高い割合は、男性40代の24.0%となっており男性20代の『関心がない』と回答している割合は極めて高い。

【地区別】

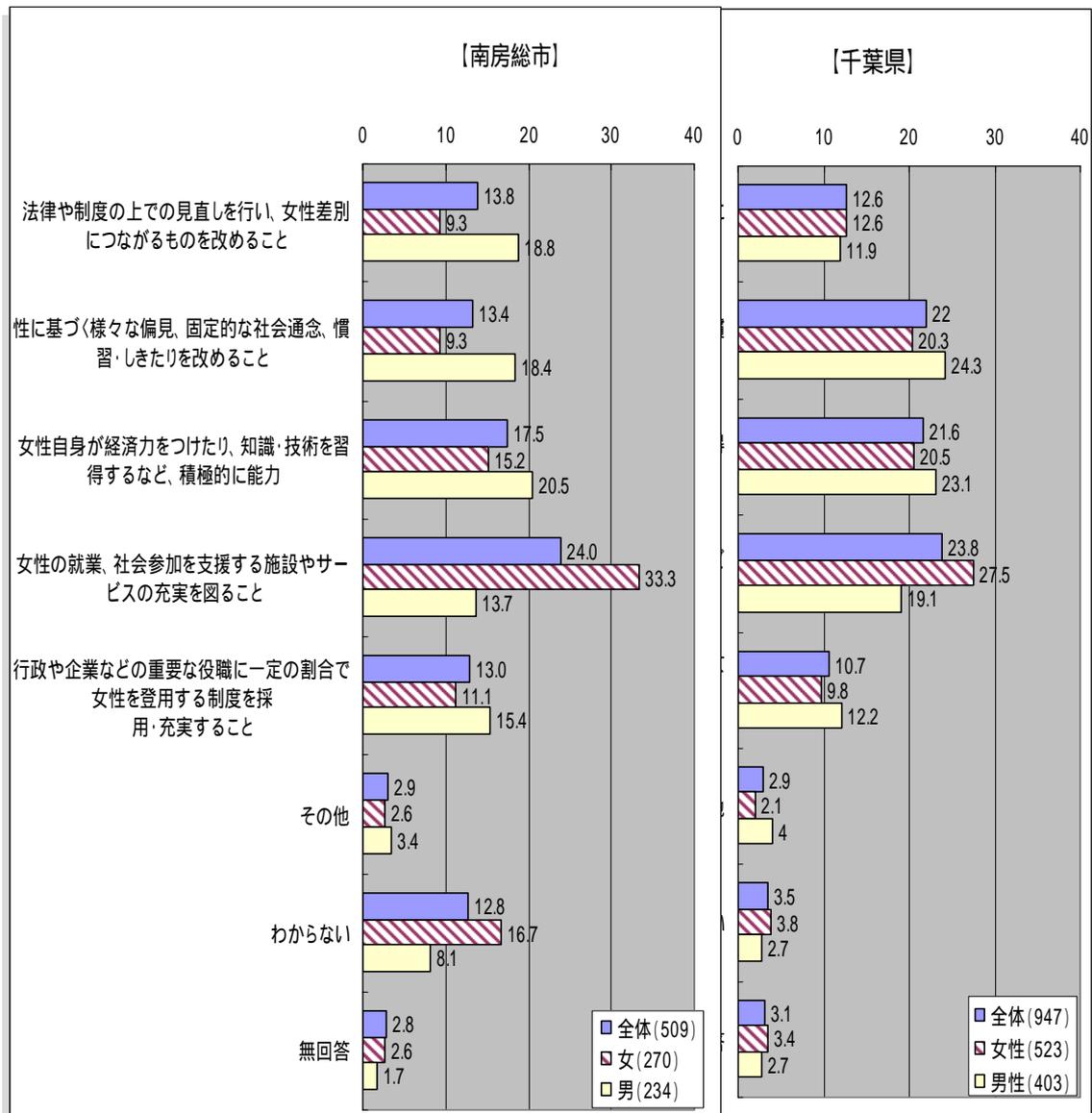
『関心がある』と回答している割合は、「富山」で70.0%と最も高く、「白浜」で41.7%と最も低く28.3ポイントの差があり、地域による差がみられる。

また、『関心がない』と回答している割合は、「富浦」で27.1%と最も高く、「富山」で11.7%と最も低く15.4ポイントの差がある。

(2) 平等になるために重要なこと

問3. 今後、あなたが、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことは何でしょうか。次の中から1つ選んでください。

男女が平等になるために最も重要と思われることは、『女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること』である。



男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要なことでは、女性は、『女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること』が33.3%と極めて高く、次いで『女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること』(15.2%)、『行政や企業などの重要な役割に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること』(11.1%)となっている。

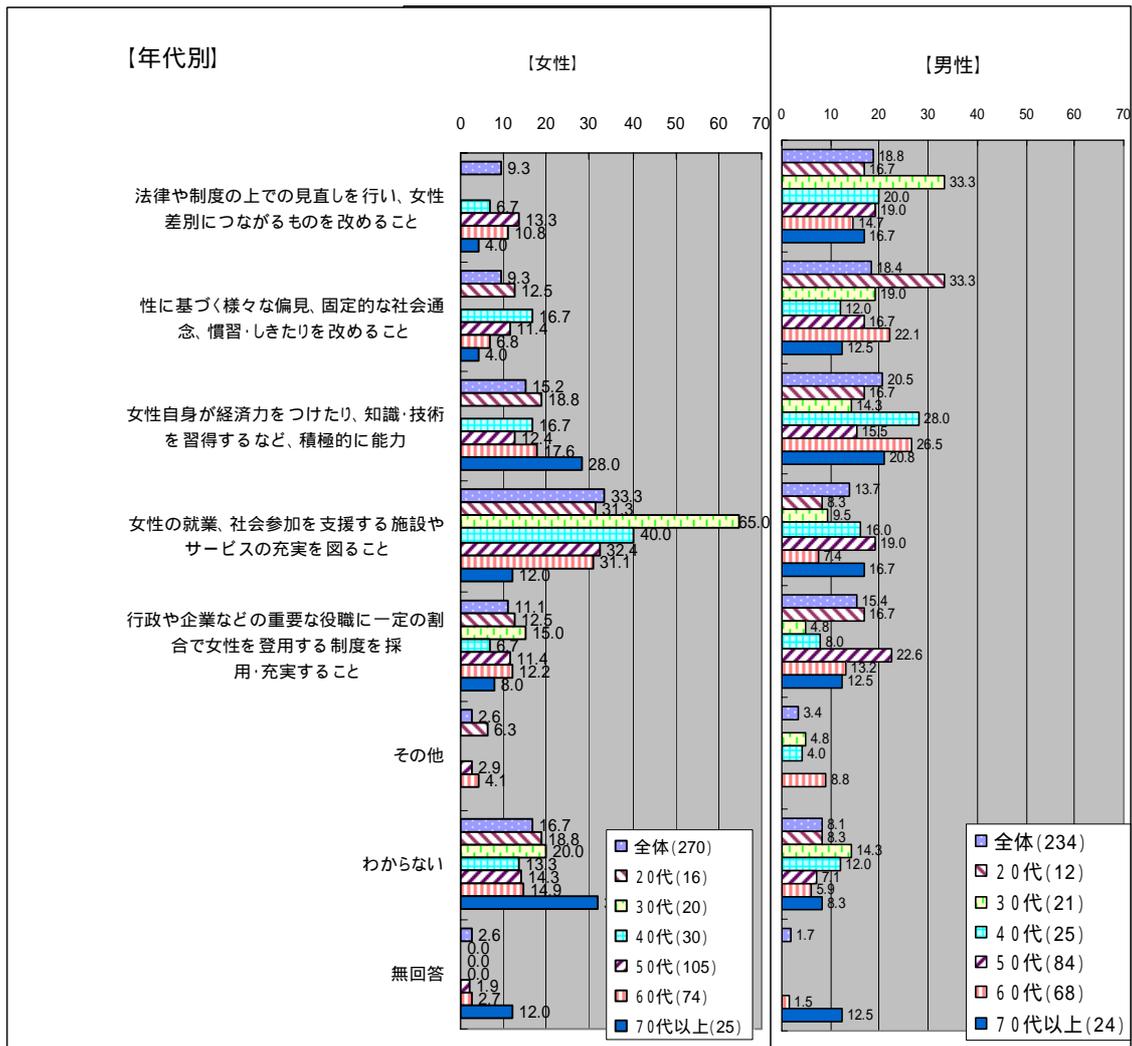
一方、男性は、『女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること』が20.5%と最も多く、次いで『法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること』(18.8%)、『性に基づく様々な偏見、固定的な

社会通念、慣習・しきたりを改めること』(18.4%)となっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、南房総市では『女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること』(24.0%)が最も高く、次いで『女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること』(17.5%)、『法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること』(13.8%)となっている。

一方、千葉県調査では『女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること』(23.8%)と回答している割合が最も高く、次いで『性に基づく様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること』(22.0%)、『女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること』(21.6%)となっており、最も重要と思うことは一致している。



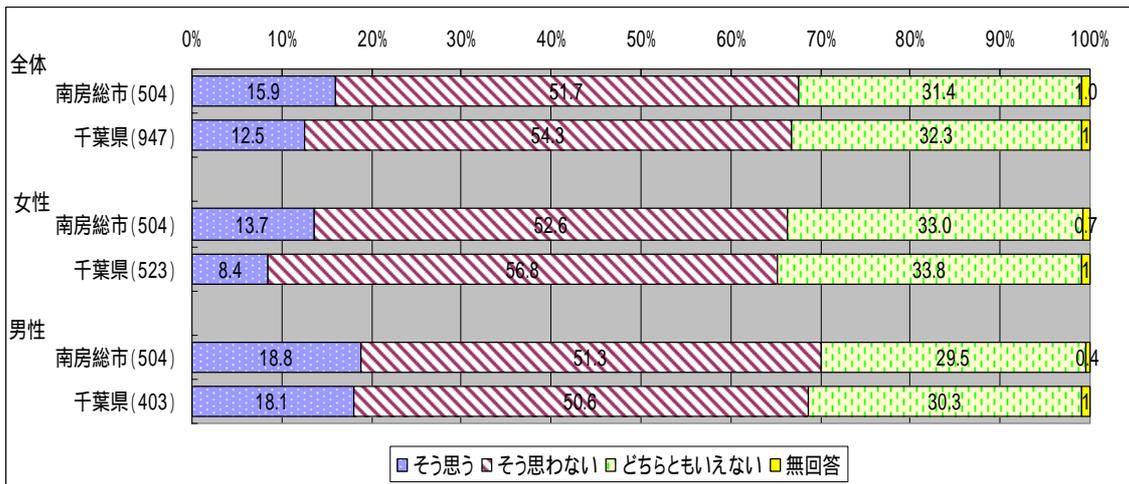
『女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること』と回答している女性の割合は、他の項目より70代以上を除く全ての年代で最も高くなっている。中でも30代では、この項目が65.0%と最も高くなっている。

一方、男性30代は、『法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること』と回答している割合が最も高く、33.3%となっている。

(3) 「男は仕事、女は家庭」の考え方

問4. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。

「男は仕事、女は家庭」という考えに、『そう思う』人は1割強であり、『そう思わない』人は、半数を超えている。



「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担意識については、『そう思わない』と回答している割合は女性で52.6%、男性で51.3%であり、男女ともに『そう思う』と回答した割合を大きく上回っている。

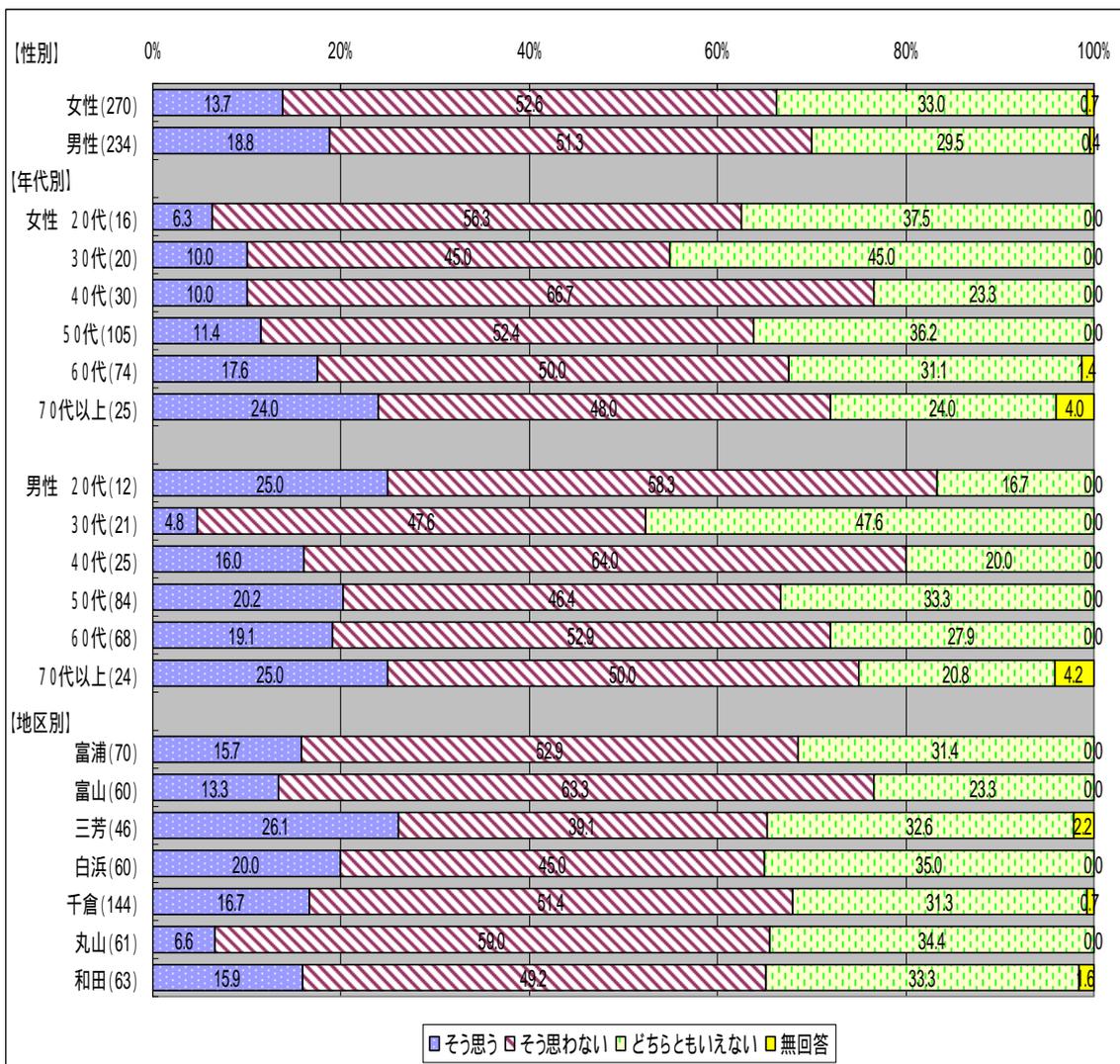
また、『そう思う』と回答している割合は、女性は13.7%であるのに対し、男性は18.8%となっており、男性の方が5.1ポイント高くなっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、『そう思う』と回答している女性の割合は、千葉県が8.4%であるのに対し、南房総市は13.7%であり、5.3ポイントも高くなっている。

また、『そう思う』と回答している男性の割合も、千葉県より0.7ポイント高くなっている。

『そう思わない』と回答している割合は、女性は、4.2ポイント千葉県より低くなっているのに対し、男性は、0.7ポイント高くなっている。



【年代別】

男女とも全ての年代で、『そう思わない』と回答している割合が、『そう思う』を上回っており、女性40代（66.7%）が最も高くなっている。『そう思う』と回答している割合は、女性は、70代以上（24.0%）で最も高く、男性は、20代と70代以上がともに（25.0%）最も高くなっている。

【地区別】

『そう思う』と回答している割合は、「三芳」が26.1%と最も高く、「丸山」で6.6%と最も低くなっており、19.5ポイントの差がある。

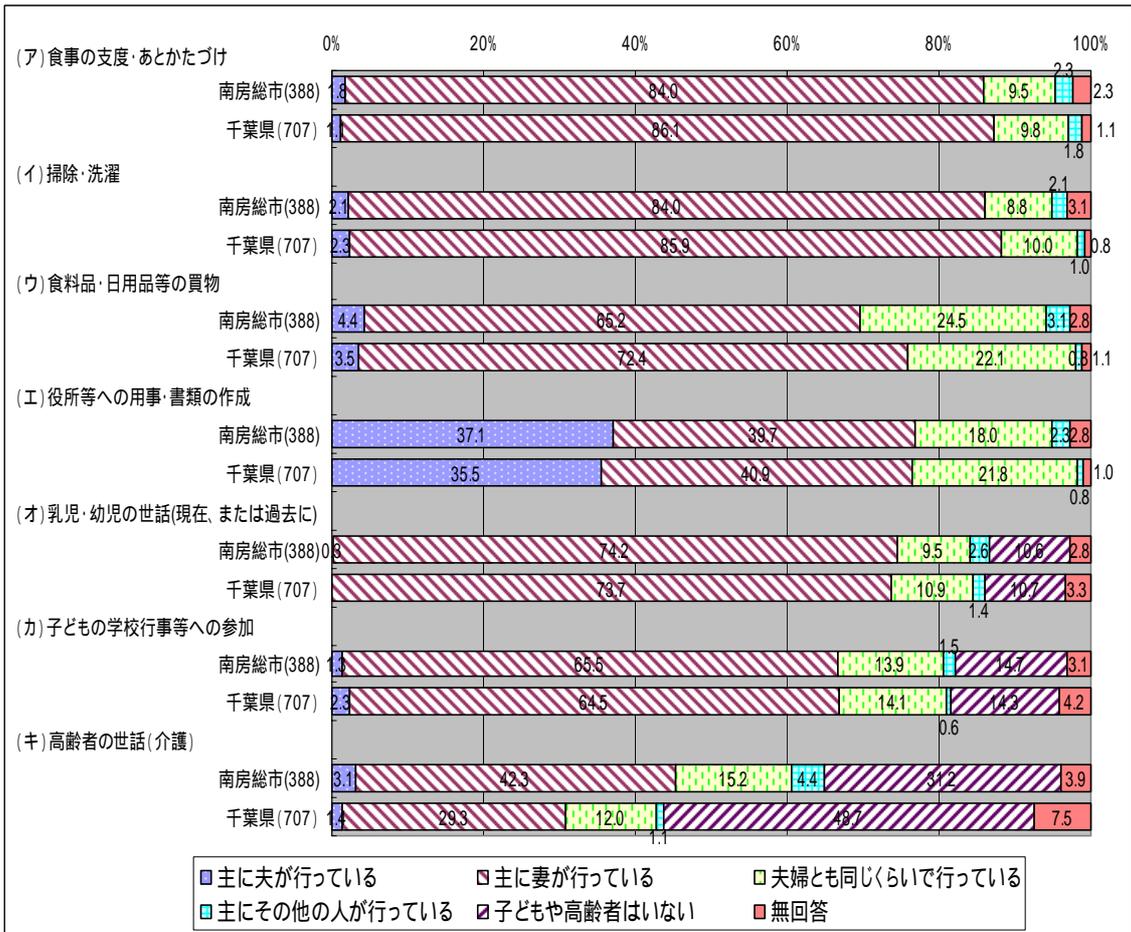
また、『そう思わない』と回答している割合は、「富山」で63.3%と最も高く、「三芳」で39.1%と最も低く24.2ポイントの差があり、地区による差がみられる。

3. 家庭生活と職業

(1) 家事等の役割分担

問7. 問5で「1. 結婚している」とお答えの方に伺います。あなたのご家庭では、次の(ア)～(キ)にあげるような日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。次の中から1つずつ選んでください。

現実では、すべての日常的な仕事で、『主に妻』の役割が高い。



男女の役割について、既婚者に日常的な家庭の仕事7項目について、主に誰が分担しているかを聞いたところ、「食事の支度・あとかたづけ」(84.0%)、「掃除・洗濯」(84.0%)、次に「乳児・幼児の世話」(74.2%)を『主に妻が行っている』と回答している割合が大きく、妻の役割分担が大きくなっている。

「乳児・幼児の世話」「子どもの学校行事等への参加」「高齢者の世話(介護)」は「子どもや高齢者はいない」とする者がいるものの、該当者に占める『主に妻が行っている』の割合は、それぞれ74.2%、65.5%、42.3%となっており、妻の役割分担度合いがかなり高くなっている。

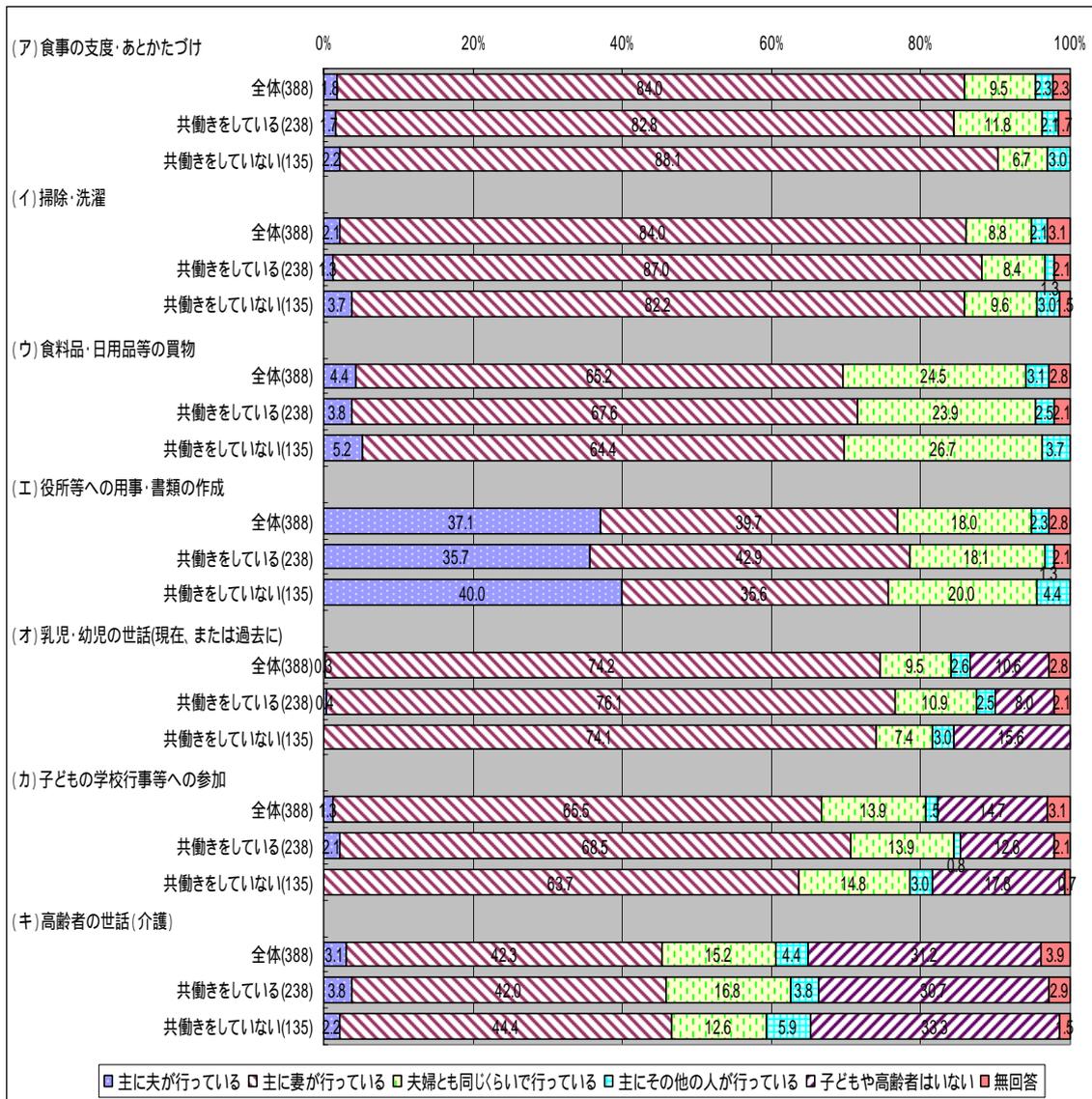
「役所等への用事・書類の作成」については、『主に妻が行っている』と回答している割合は39.7%にとどまり、『主に夫が行っている』が37.1%、『夫婦とも同じくらい行っている』が18.0%となっており、この項目については、他の項目に比べ、夫の役割分担

が高くなっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、「高齢者の世話（介護）」では、高齢者はいないとする割合が千葉県より17.5ポイント少ないものの「主に妻が行っている」項目を除く他の項目では、ほぼ同一の傾向にあり、高齢者率の高い南房総市のほうが「高齢者の世話（介護）」を行う妻の割合が高くなっている。

【共働き別】



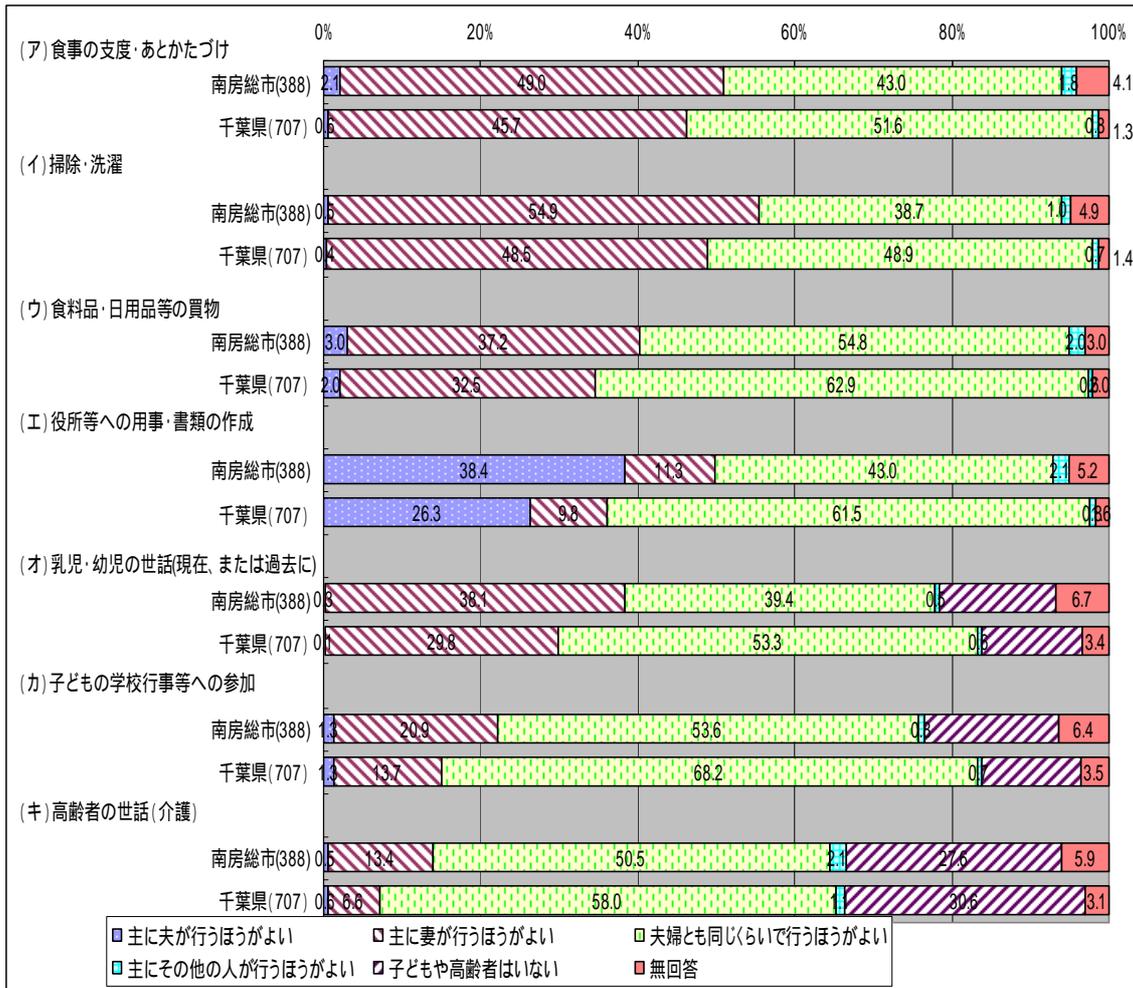
共働きをしている・共働きをしていない別にみると、「食事の支度・あとかたづけ」・「高齢者の世話（介護）」を除くすべての項目で、共働きをしている人の方がしていない人よりも『主に妻が行っている』の割合が他の項目に比べると高くなっている。

また、「役所等への行事・書類の作成」は、共働きをしていない人（40.0%）が『主に夫が行っている』と回答している割合が高くなっているが、共働きをしている、していないにかかわらず、『主に夫が行っている』が他の項目に比べると比較的高くなっている。

(2) 理想的な家事等の役割分担

問8 .問5で「1.結婚している」とお答えの方に伺います。では、あなたは理想として、次の(ア)～(キ)にあげるような日常的な仕事は、どのように分担するのがよいと思いますか。次の中から1つずつ選んでください。

理想では、「食事の支度・あとかたづけ」「掃除・洗濯」は『主に妻』、それ以外の日常的な仕事は『夫婦とも』の割合が高い。

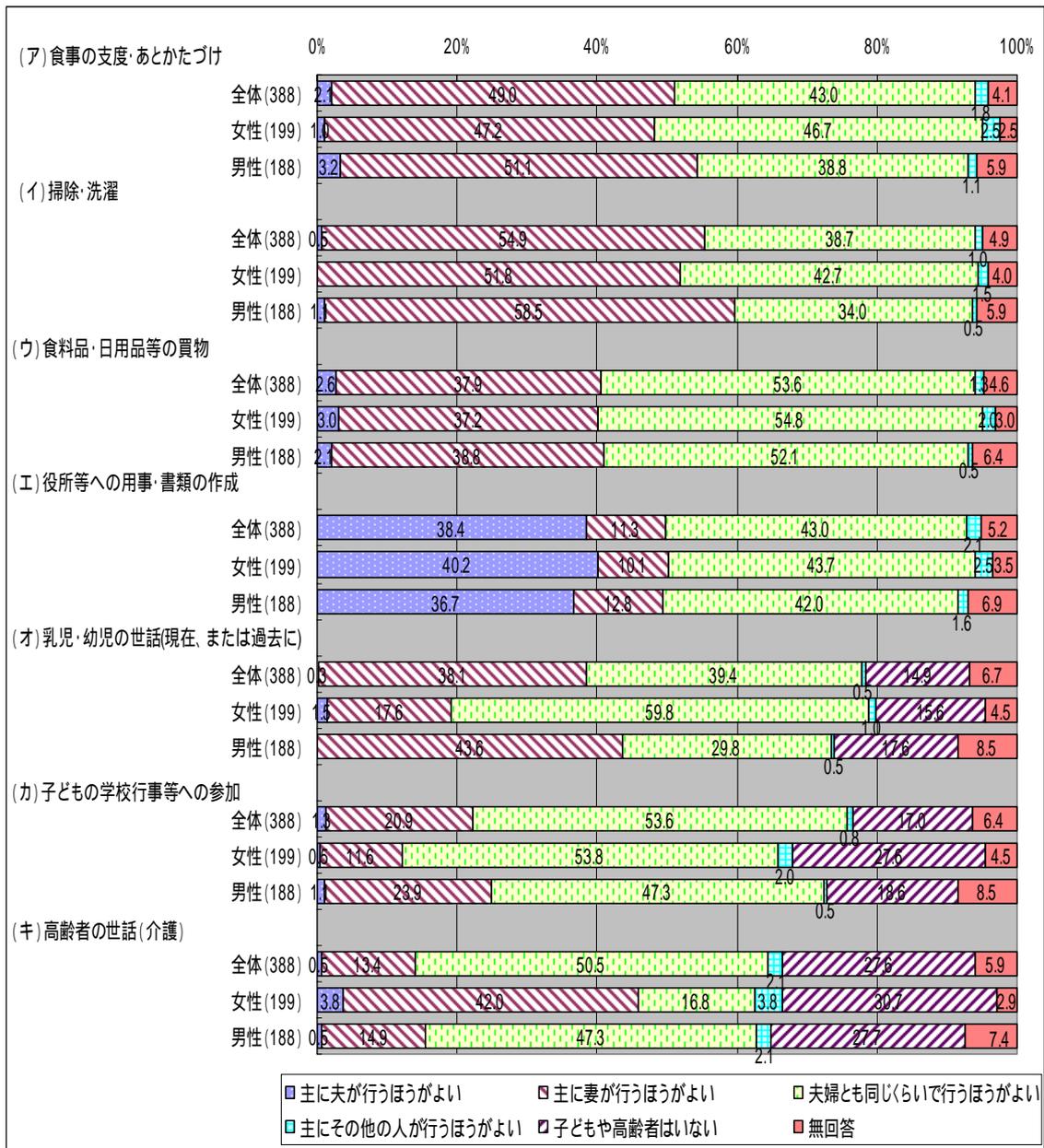


家事等の役割分担に関する理想を聞いたところ、「食事の支度・あとかたづけ」、「掃除・洗濯」を除いた全ての項目で、『主に妻が行うほうがよい』よりも『夫婦とも同じくらい行うほうがよい』と回答している割合が高くなっている。特に、「食料品・日用品等の買物」、(54.8%)、「子どもの学校行事等への参加」(53.6%)では、高くなっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、すべての項目で、南房総市の方が『夫婦とも同じくらい行うほうがよい』と回答している割合が低くなっており、家事等を夫婦で役割分担するという意識が、千葉県よりも低いことがわかる。また、『主に妻が行うほうがよい』と回答している割合はすべての項目で南房総市の方が高くなっている。

【性別】



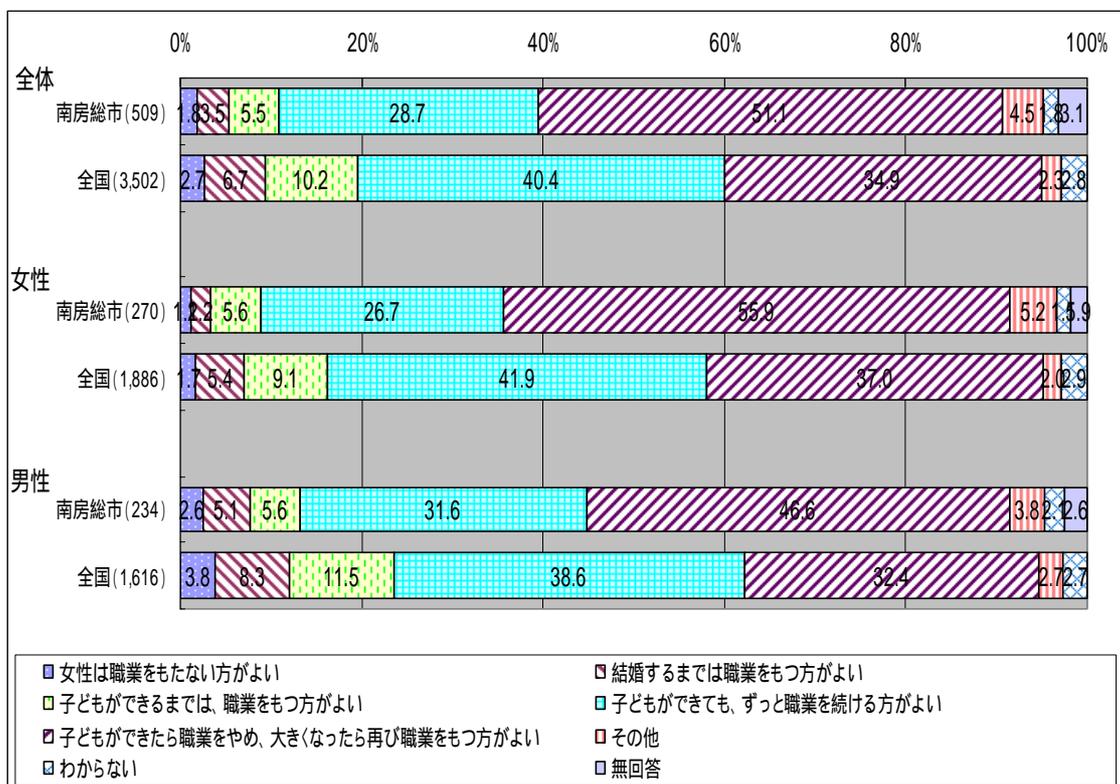
「乳児・幼児の世話」では、女性は『夫婦とも同じくらい行うほうがよい』（59.8%）が『主に妻が行うほうがよい』（17.6%）より42.2ポイント高いのに対し、男性は『主に妻が行う』（43.6%）が『夫婦とも同じくらい行う』（29.8%）より13.8ポイント高くなっており、理想の考えに男女の差がみられる。

また、「役所等への用事・書類の作成」については、現状と同様に『主に夫が行う』（女性40.2%、男性36.7%）と回答している割合が、男女とも高くなっている。

「高齢者の世話（介護）」については、『主に妻が行う』（女性42.0%、男性14.9%）で女性の方が27.1ポイント高いのに対し、『夫婦とも同じくらい行う』（女性16.8%、男性47.3%）は男性の方が30.5ポイント高くなっており、男女間で逆の意識となっている。

問10. あなたは、一般的に女性が職業をもつことについて、どのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

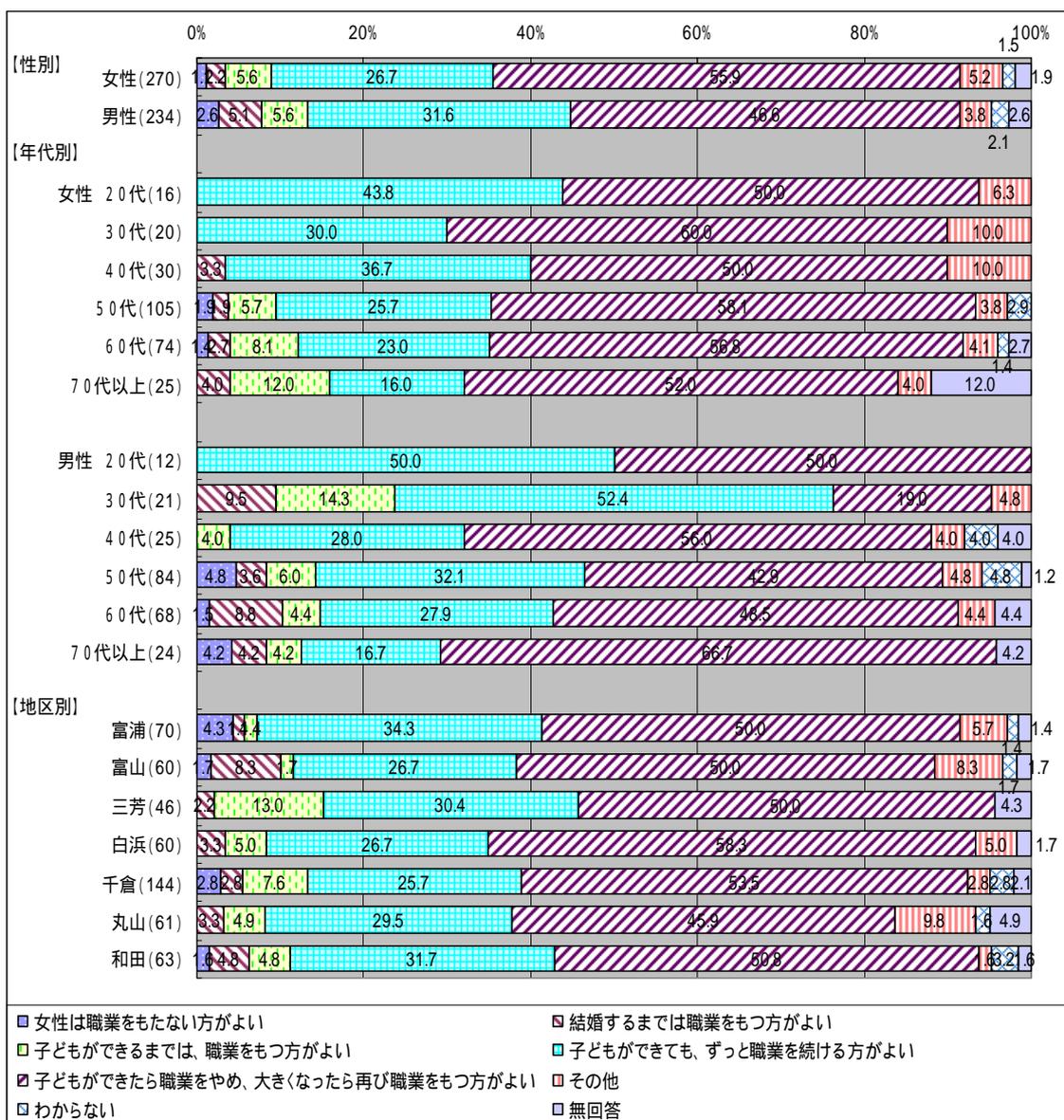
女性が職業をもつことについて、半数の人が『子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい』と考えている。



女性が職業をもつことについて、どう考えるか聞いたところ、男女ともに『子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい』(女性55.9%、男性46.6%)と回答している割合が最も高くなっている。次いで『子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい』(女性26.7%・男性31.6%)、『子どもができるまでは、職業をもつ方がよい』(男女とも5.6%)となっており、男女共に同じ考えであることがわかる。

【全国調査との比較】

全国調査と比較すると、南房総市では『子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい』と回答している割合が最も高いのに対し、国は『子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい』と回答している割合が最も高くなっており、上位2位の回答が入れ替わっている。



【年代別】

男性の30代では『子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい』と回答している割合が最も高くなっている。一方、男性20代の同ポイントを除き男女ともにそれ以外の年代では、『子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもち方がよい』と回答している割合が最も高くなっている。

『女性に職業をもちたくない方がよい』は、男性の50代で4.8%と最も高くなっている。

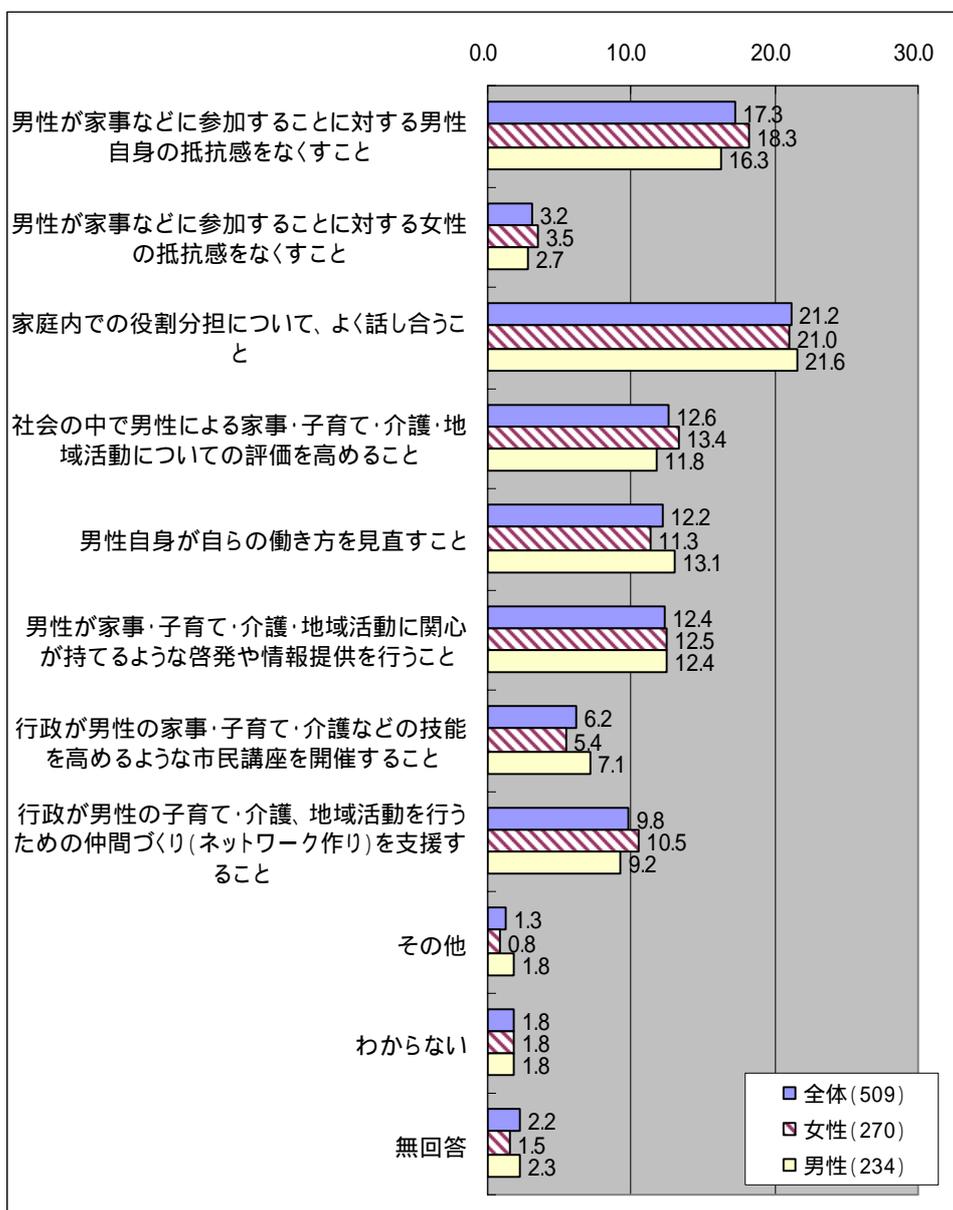
【地区別】

『子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもち方がよい』が各地区とも最も高くなっており、「丸山」の45.9%を除き50%以上となっている。

『子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい』と回答している割合は、「富浦」(34.3%)、「和田」(31.7%)、「三芳」(30.4%)の順に高くなっている。

問11. あなたは、今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

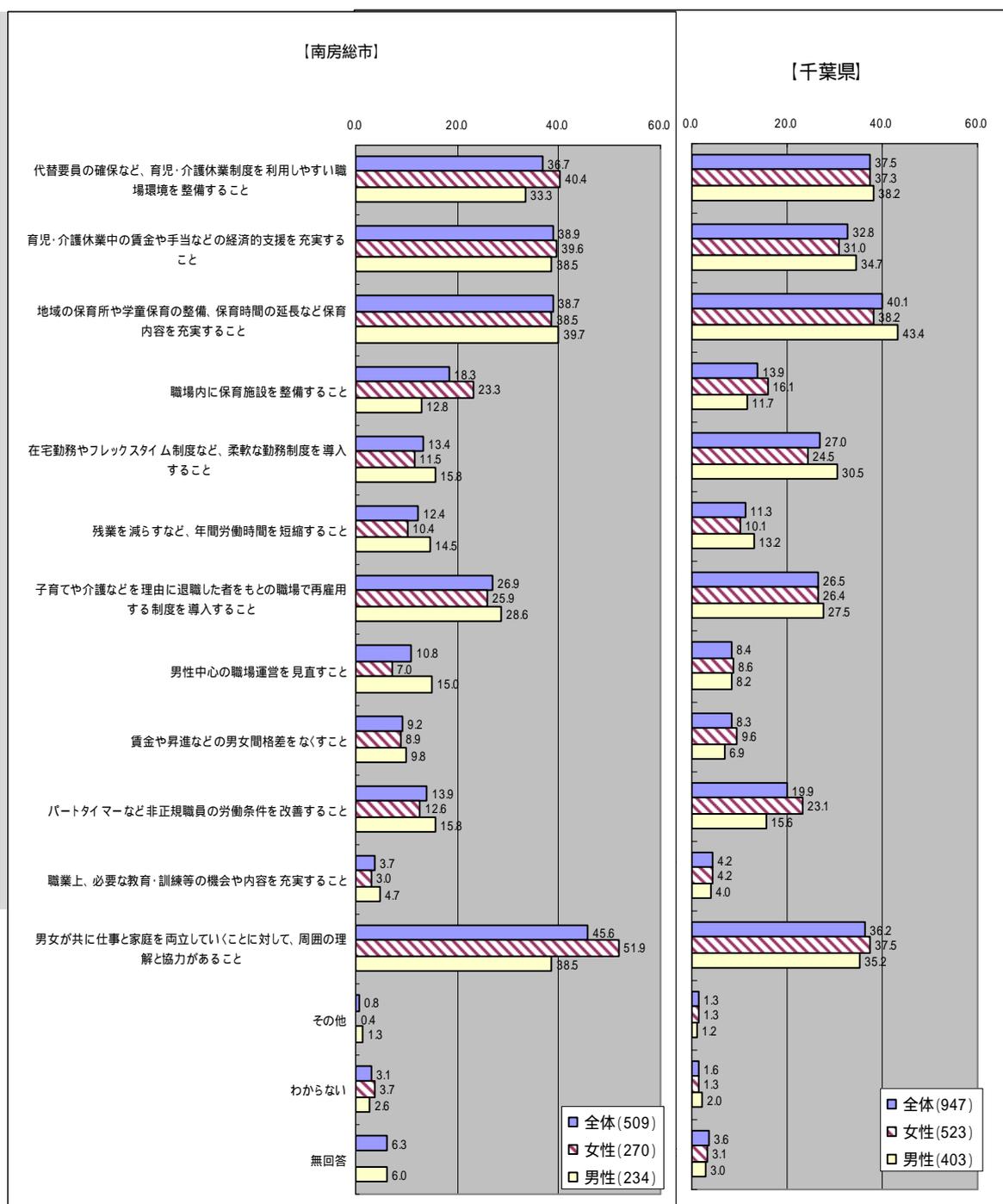
男女が共に仕事と家庭を両立していくために、『家庭内での役割分担について、よく話し合うこと』が必要だと思う人の割合が最も高く、21.2%となっている。



男性が家事・子育て・介護・地域活動などに積極的に参加していくために必要なことを聞いたところ、『家庭内での役割分担について、よく話し合うこと』(21.2%)『男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』(17.3%)次いで『社会の中で男性による家事・子育て・介護・地域活動に評価を高めること』(12.6%)となっている。すべての項目が、男女ともに割合もほぼ同じ傾向にある。

問12. 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

男女が共に仕事と家庭を両立していくために、『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』が必要だと思う人の割合が最も高く、45.6%となっている。



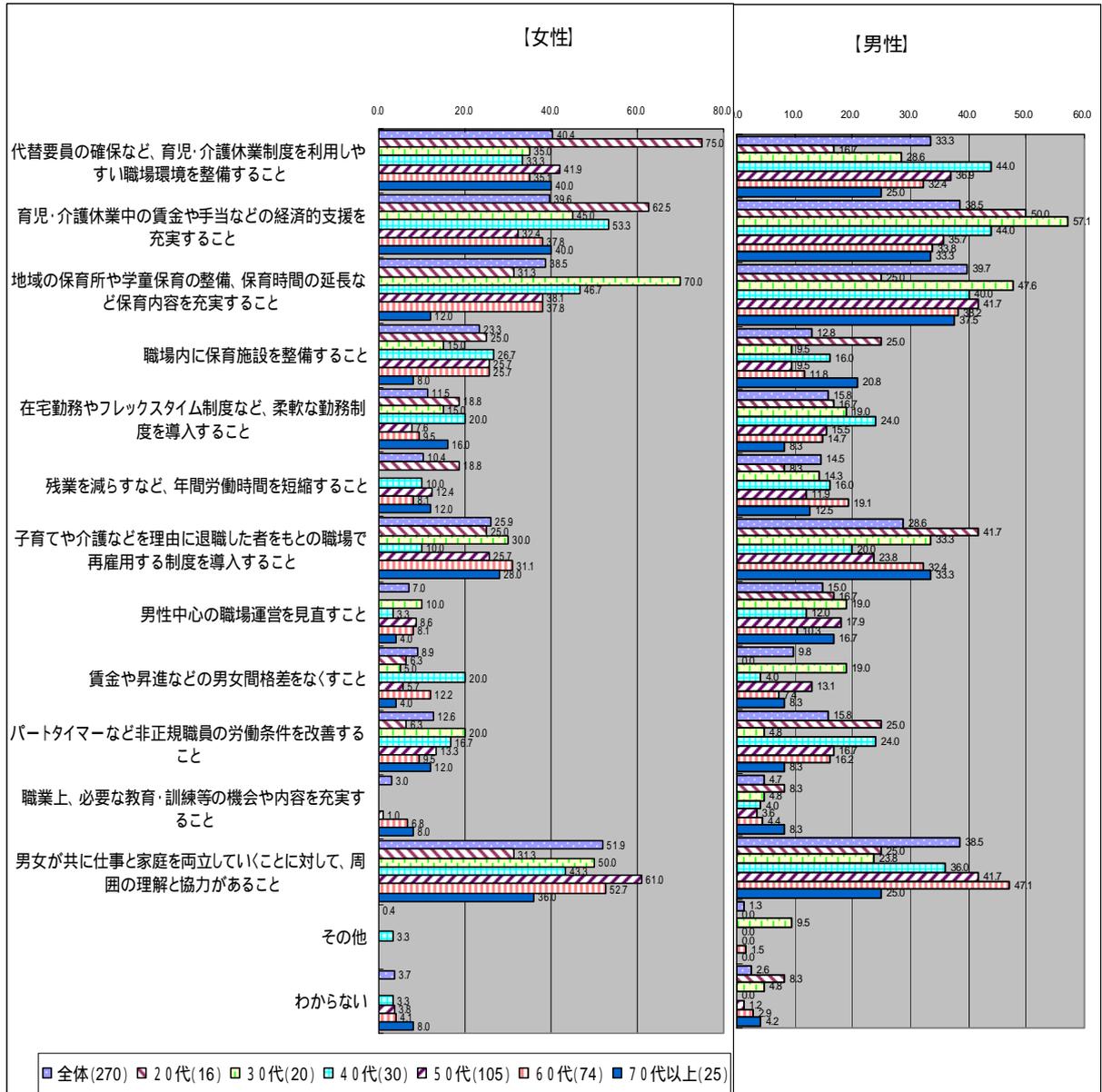
男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要な環境整備について聞いたところ、女性は『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』（51.9%）と回答している割合が最も高くなっており、次いで、『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』（40.4%）、『育児・介護休業中賃金や手当などの経済的支援を充実すること』（39.6%）となっている。

一方、男性は『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』（39.7%）と回答している割合が最も高くなっており、次いで、『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』『育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること』がともに（38.5%）となっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、南房総市では『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』、千葉県では、『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』と回答している割合が最も高くなっている。また、必要だと思う上位4位までについて同じ項目があがっており、南房総市と千葉県では同じような環境整備が必要とされている。

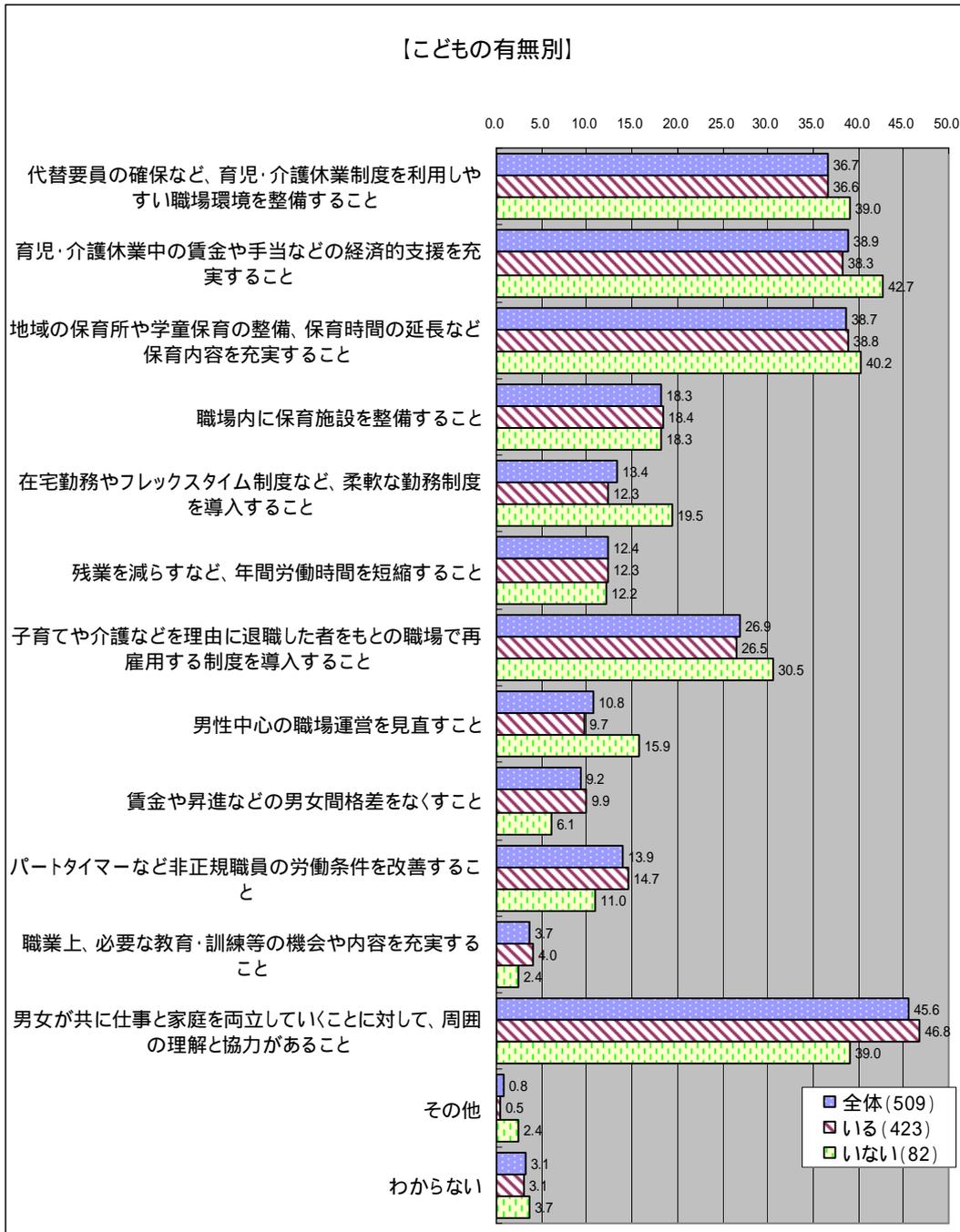
【年代別】



『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』では、女性20代で75.0%・男性40代で44.0%、『育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること』では、女性20代で62.5%・男性30代で57.1%、『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』では、男女とも30代で（女性70.0%、男性47.8%）、『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』では、女性50代で61.0%・男性60代で47.1%、回答している割合が最も高くなっている。

女性20代では、『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』が75%最も高くなっているのに対し、男性20代では、16.7%とかなりの開きあり、女性が育児休業を活用しにくい環境にあることが伺える。一方、『育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること』については、男女ともに半数を超えている。

【子どもの有無別】

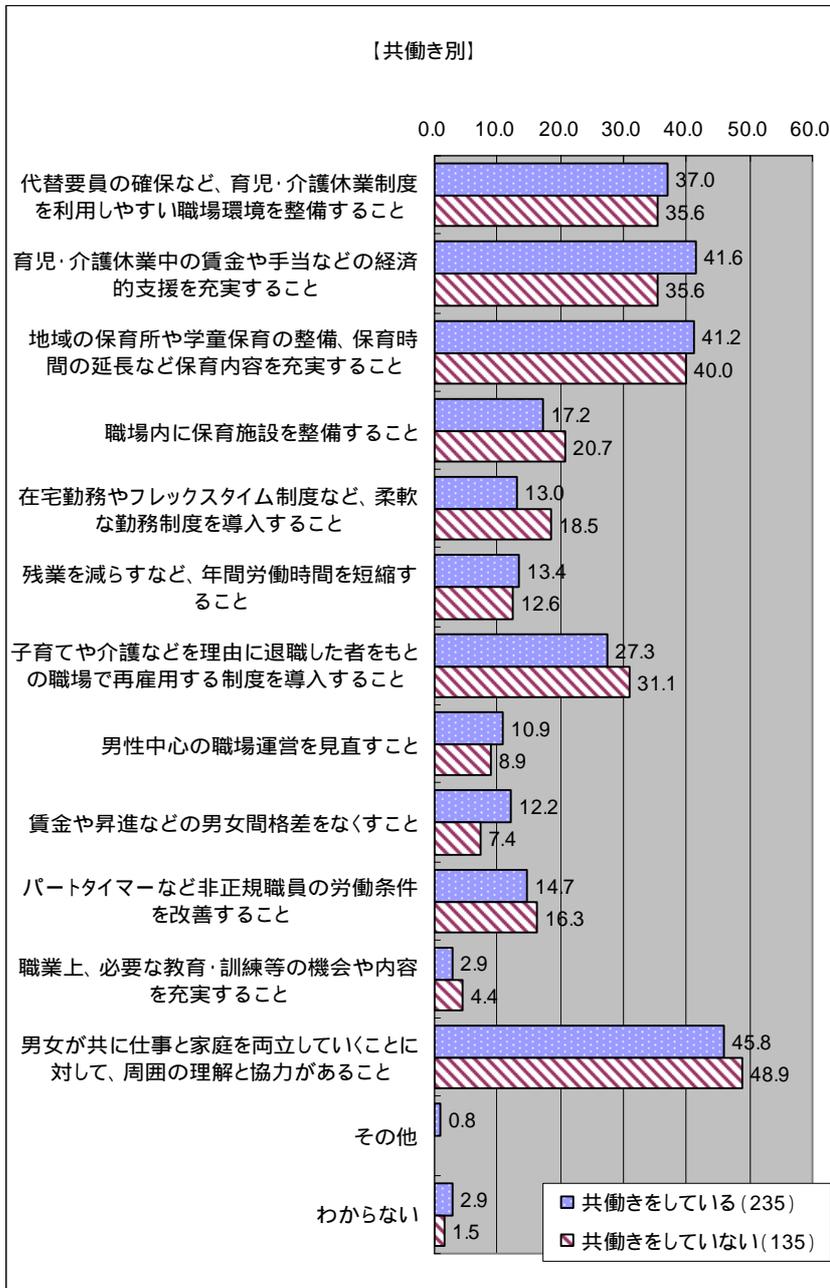


子どもがいる人の上位は、『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』（46.8%）、『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』（38.8%）、『育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること』（38.3%）。子どもがいない人の上位は、『育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること』（42.7%）、『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』（40.2%）、『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』、同ポイントで、『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』

(39.0%)となっている。必要だと思う項目は、若干違いはあるが、子どもがいる人、いない人でも、子育てや周囲の理解などの同じ環境整備が必要とされている。

また、『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』では、いる人、いない人それぞれ上位3位となっているものの、いる人は46.8%いない人は39.0%と、子どもの有無で7.8%も考えに差がみられる。

【共働き別】



共働きを状況に関わらず、『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』（共働きをしている45.8%、していない48.9%）が最も高く、次いで『育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること』（共働きをしている41.6%、していない35.6%）、『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』（共働きをしている41.2%、していない40.0%）が高くなっている。

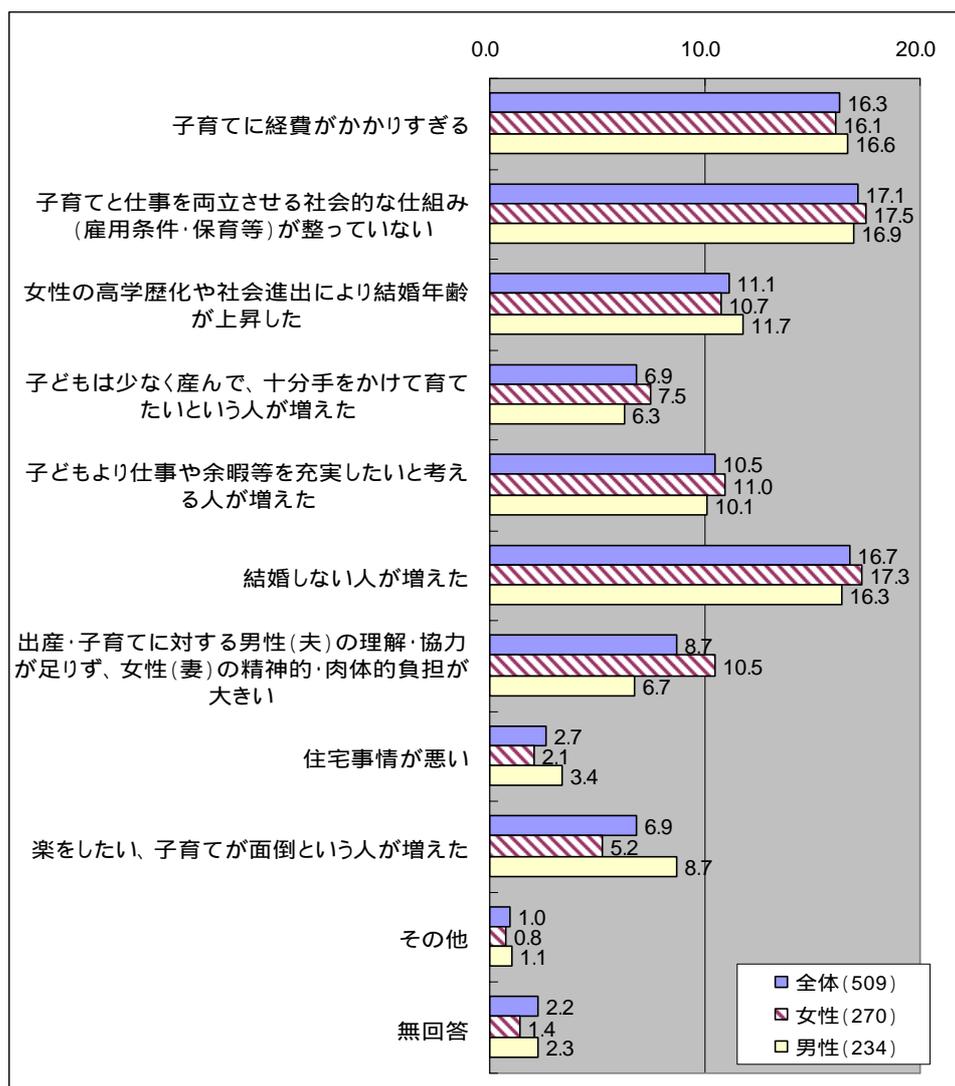
また、最も高い『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』では、共働きをしていない人のほうがしている人よりも、3.1ポイント高い割合となっている。

4. 少子・高齢化

(1) 少子・高齢化

問13. あなたは、出生率が低下している原因は何だと思えますか。次の中から3つまで選んでください。

出生率が低下している原因は、『子育てに経費がかかりすぎる』、『子育てと仕事を両立させる社会的な仕組みが整っていない』と思う人の割合が高い。

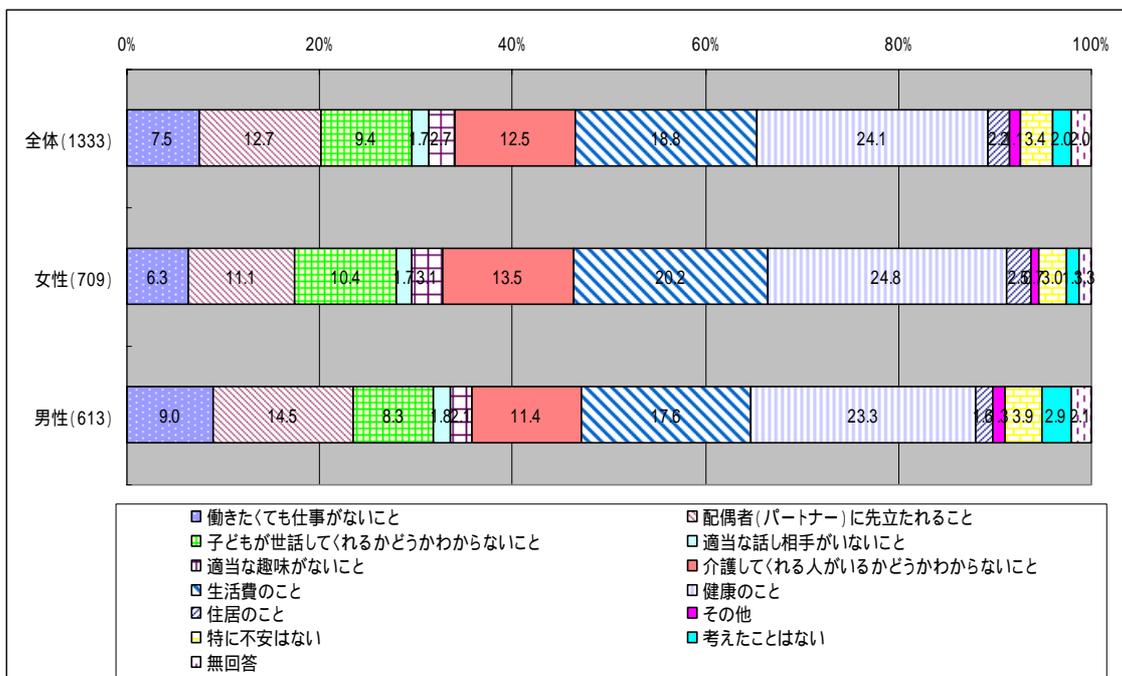


出生率が低下している原因は、『子育てに経費がかかりすぎる』(16.3%) 『子育てと仕事を両立させる社会的な仕組みが整っていない』(17.1%) 『結婚しない人が増えた』(16.7%)と、子育てへの経済的理由、社会的仕組みなどが高くなっている。

また、男女による意識の違いが見られるのは、『出産・子育てに対する男性(夫)の理解・協力が足りず、女性(妻)の精神的・肉体的負担が大きい』 『楽をしたい、子育てが面倒という人が増えた』など、子育てに関する男性の意識の低さが伺える。

問14. あなたは、ご自分の老後について、不安に思うことがありますか。次の中から3つまで選んでください。

老後の不安については、「健康のこと」が男女とも高く、次いで「生活費」のことに不安に思う割合が高い。

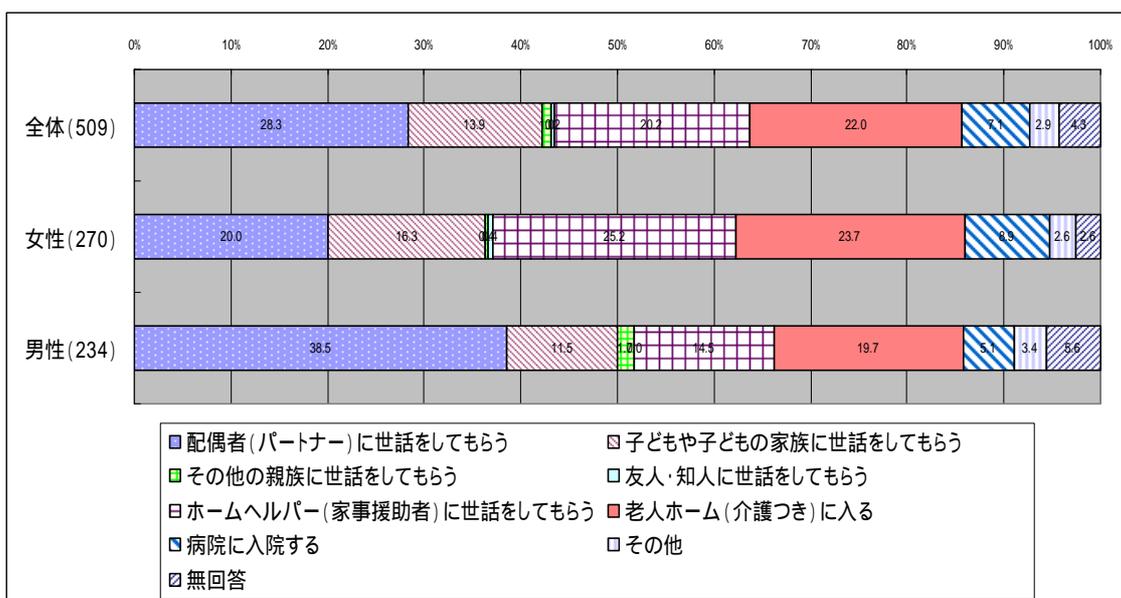


「健康のこと」に対する不安は、男女とも最も高く（女性24.8%・男性23.3%）次いで、男女とも「生活費のこと」（女性20.2%・男性17.6%）となっている。

また、女性は、3番目に「介護してくれる人がいるかどうか分からないこと」（13.5%）の割合が多いのに対し、男性は、「配偶者（パートナー）に先立たれること」（14.5%）をあげている。

問15. あなたが高齢になって、もし介護が必要になった時はどうなされますか。現状のことも含めて1つ選んでください。

介護が必要になった時、女性は、「ホームヘルパー(家事援助者)に世話をしてもらう」と考える人の割合が最も高いのに対し、男性は、「配偶者(パートナー)に世話をしてもらう」と考える人の割合が最も高い。



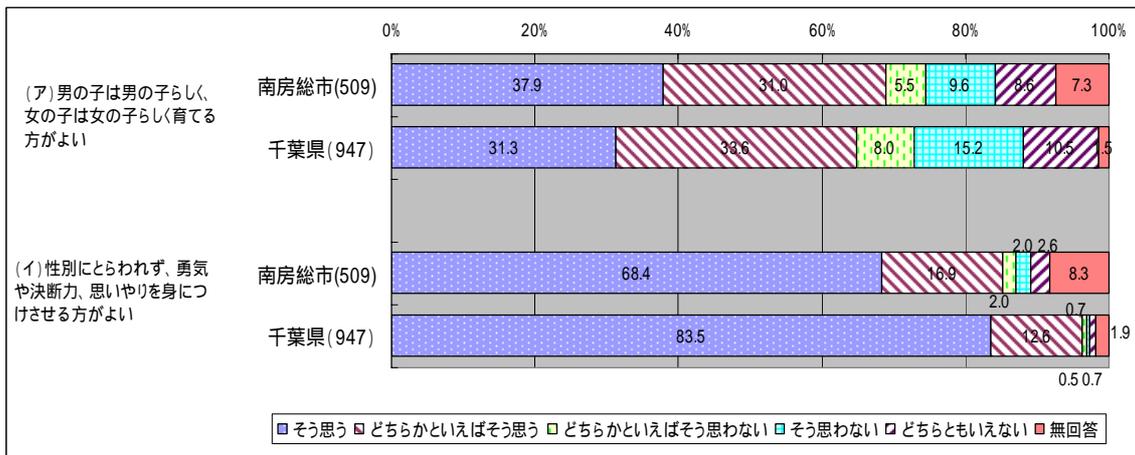
女性は、「ホームヘルパー(家事援助者)に世話をしてもらう」(25.2%)と考える人の割合が最も高いのに対し、男性は、「配偶者(パートナー)に世話をしてもらう」(38.5%)と考える人の割合が最も高い。また、女性は、「老人ホームに入る」(23.7%)を「ホームヘルパー(家事援助者)に世話をしてもらう」(23.7%)の次にあげており、男性よりパートナーへの依存心は低い。

5. 教育

(1) 子どもの教育における男女平等の意識

問16. あなたは、子どもの教育における男女平等の意識についてどう思いますか。次の(ア)～(イ)のそれぞれについて1つずつ選んでください。

子どもの教育で、「性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせたい」と考える人の割合は、最も高く、85.3%となっている。



子どもの教育における男女平等意識について聞いたところ、すべての項目で、《そう思う》と回答している割合が、《そう思わない》より高くなっている。特に、「性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせる方がよい」で《そう思う》と回答している割合は85.3%と、非常に高くなっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、《そう思う》と回答している割合は、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」（南房総市68.9%、千葉県64.9%）で、南房総市のほうが4ポイント高くなっている。一方、「性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせる方がよい」（南房総市85.3%、千葉県96.1%）では、南房総市が10.8ポイント低くなっている。

また、《そう思わない》と回答している割合は、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」（南房総市15.1%、千葉県23.2%）で、南房総市が8.1ポイント低くなっている。

- ・《そう思う》＝「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計
- ・《そう思わない》＝「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計

(ア) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい

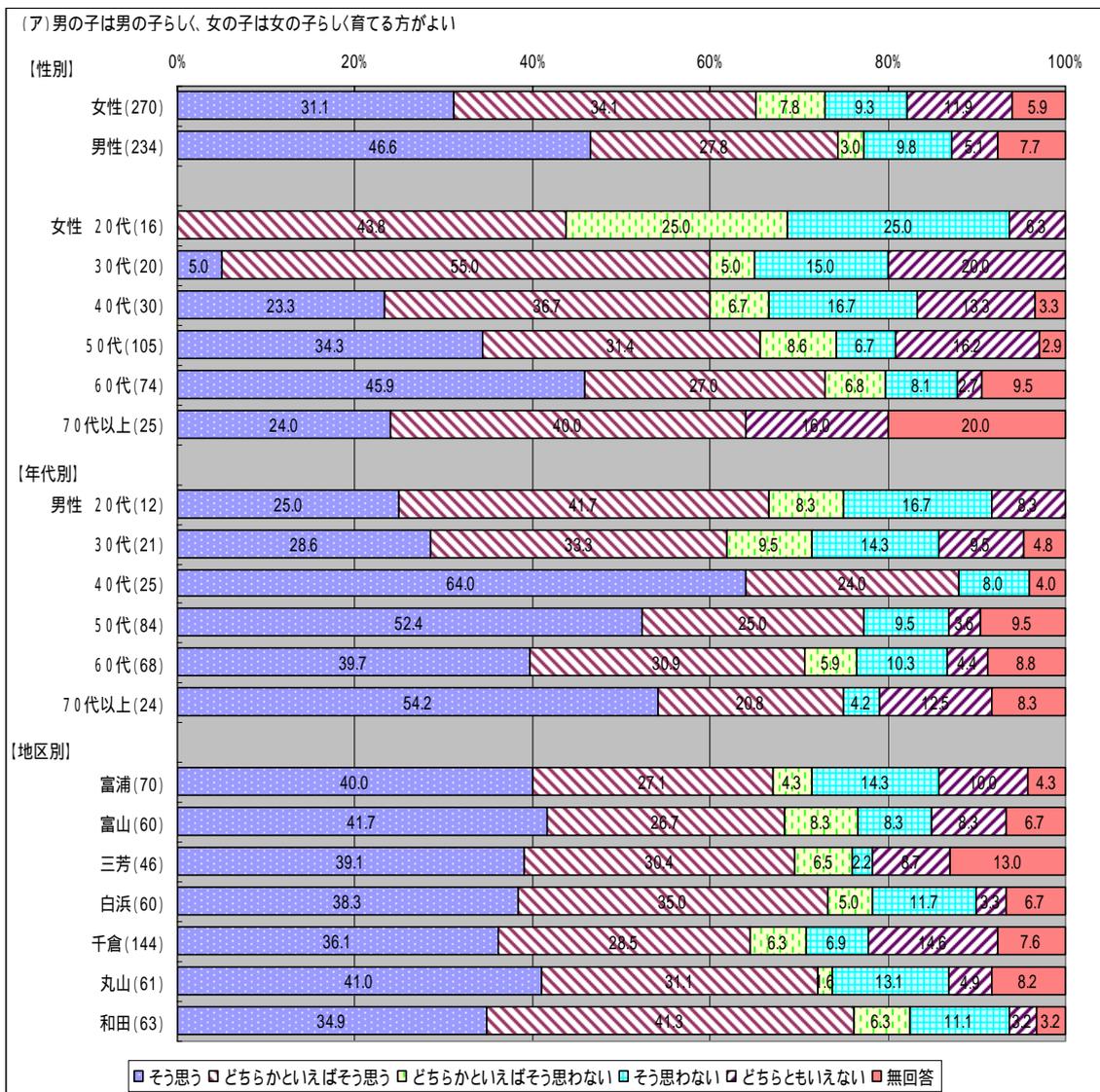
女性の65.2%、男性の74.4%が《そう思う》と回答しており、男女ともに肯定的な回答が多くなっている。

【年代別】

女性の20代を除くすべての年代で、《そう思わない》より《そう思う》と回答している割合が高くなっている。

【地区別】

《そう思う》と回答している割合が、「和田」(76.2%)で他の地区よりも高く、最も低い「千倉」(64.6%)との差は11.6ポイントであり、地域による若干の差が見られる。



(イ) 性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせる方がよい

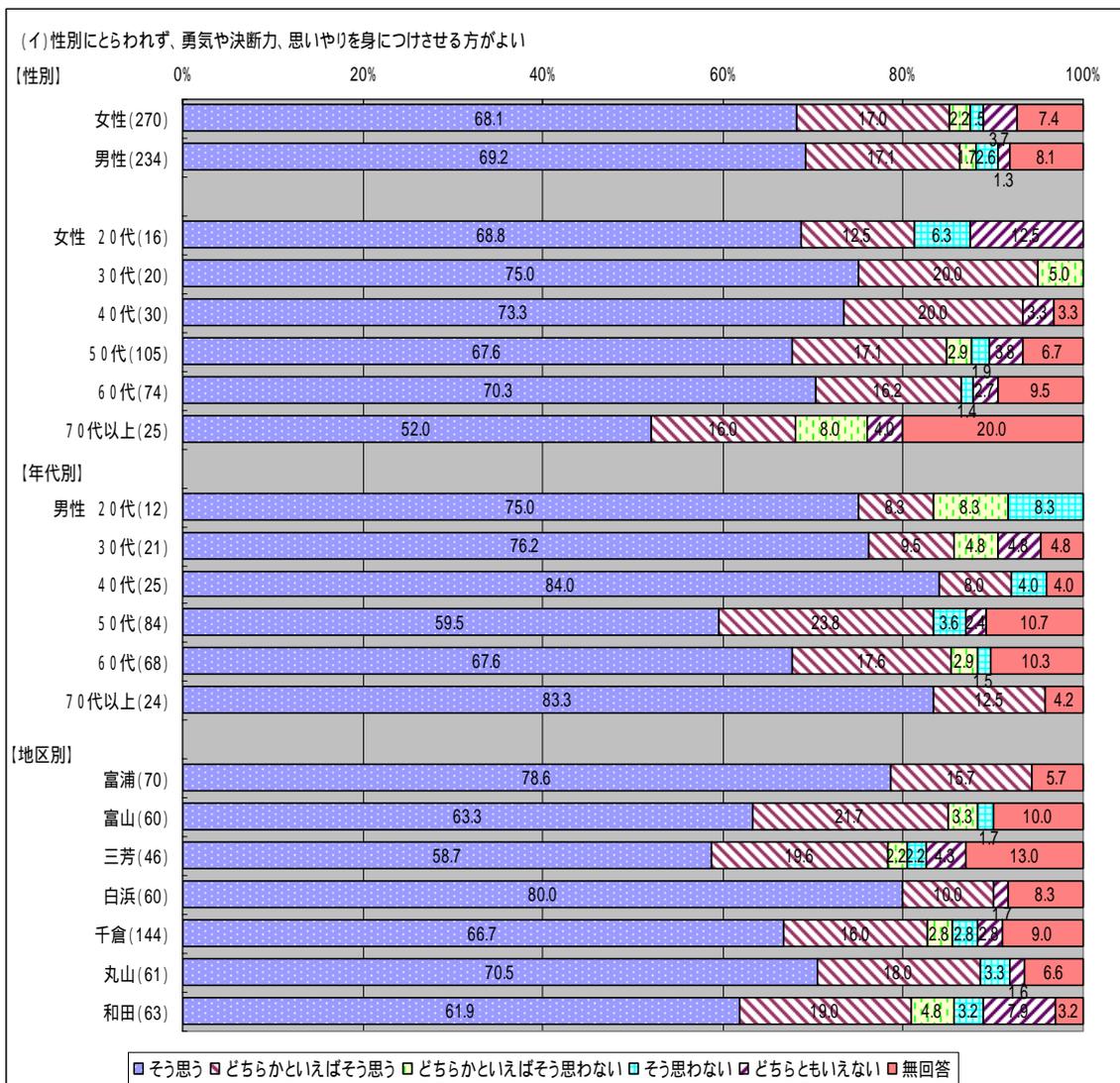
《そう思う》と回答した割合は、女性の85.1%、男性の86.3%が《そう思う》と回答しており、男女とも圧倒的に高い割合となっている。

【年代別】

男女ともすべての年代で、《そう思う》と回答している割合が、圧倒的に高くなっている。中でも女性30代(95.0%)、男性70代以上(95.8%)では、《そう思う》と回答している割合が9割を超えている。

【地区別】

すべての地区で、《そう思う》と回答している割合が、最も高くなっている。特に、「富浦」では、94.3%と高い割合となっている。

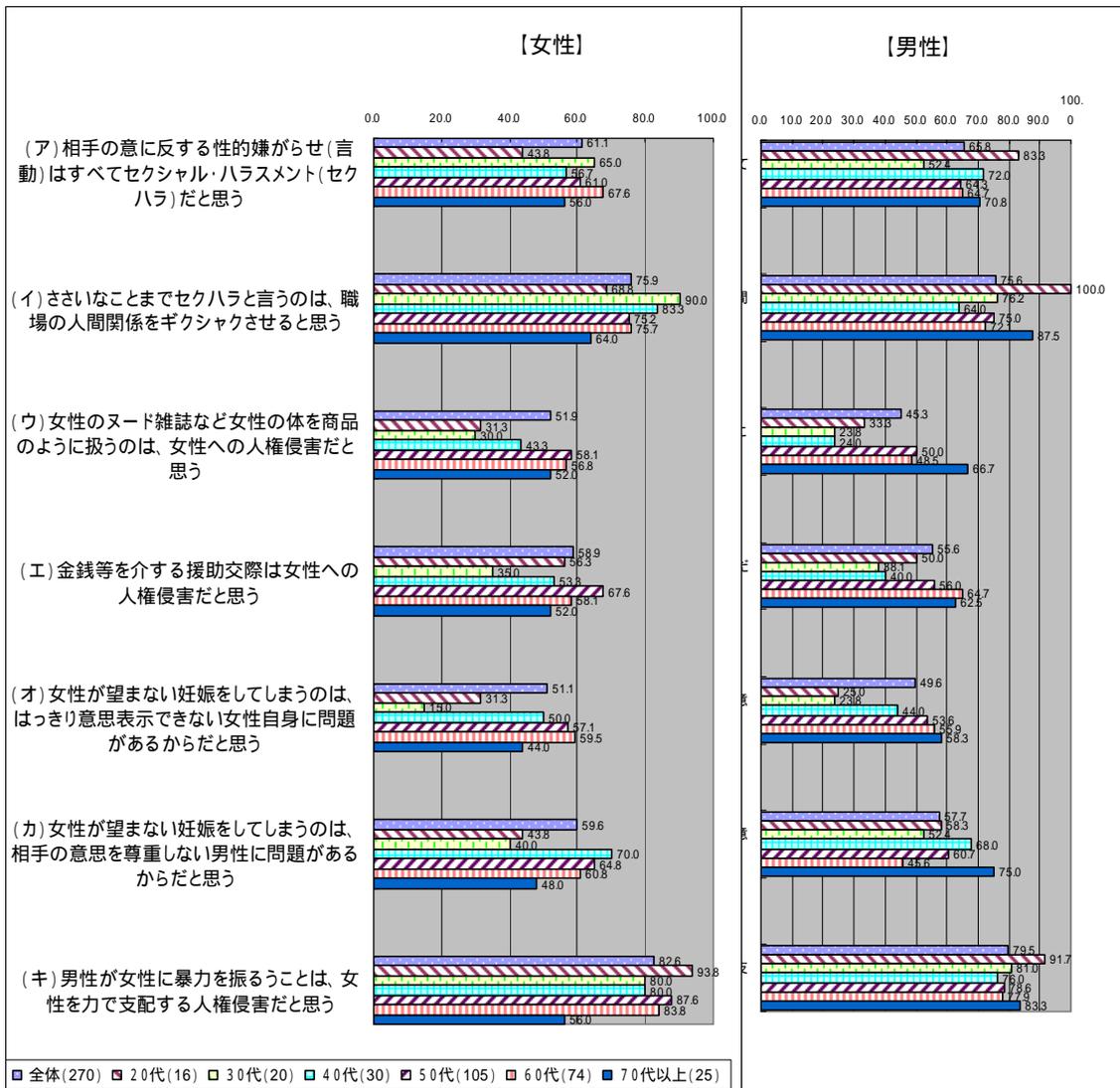


6. 女性に対する人権問題

(1) 女性の人権が侵害されていると感じること

問17. あなたは、次の女性に対する問題についてどのように思いますか。次の(ア)～(キ)のそれぞれについてあなたの考えに最も近いものを1つずつ選んでください。

『相手の意に反する性的嫌がらせ(言動)はすべてセクシャル・ハラスメント』と思う反面、『ささいなことまでセクハラと言うのは、職場の人間関係をギクシャクさせる』と思う人が。



『相手の意に反する性的嫌がらせ(言動)はすべてセクシャル・ハラスメント(セクハラ)だと思う』『ささいなことまでセクハラと言うのは、職場の人間関係をギクシャクさせると思う』『男性が女性に暴力を振るうことは、女性を力で支配する人権侵害だと思う』の項目では、『そう思う』と回答する者は男女とも高い割合となっている。

- ・《そう思う》 = 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計
- ・《そう思わない》 = 「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計

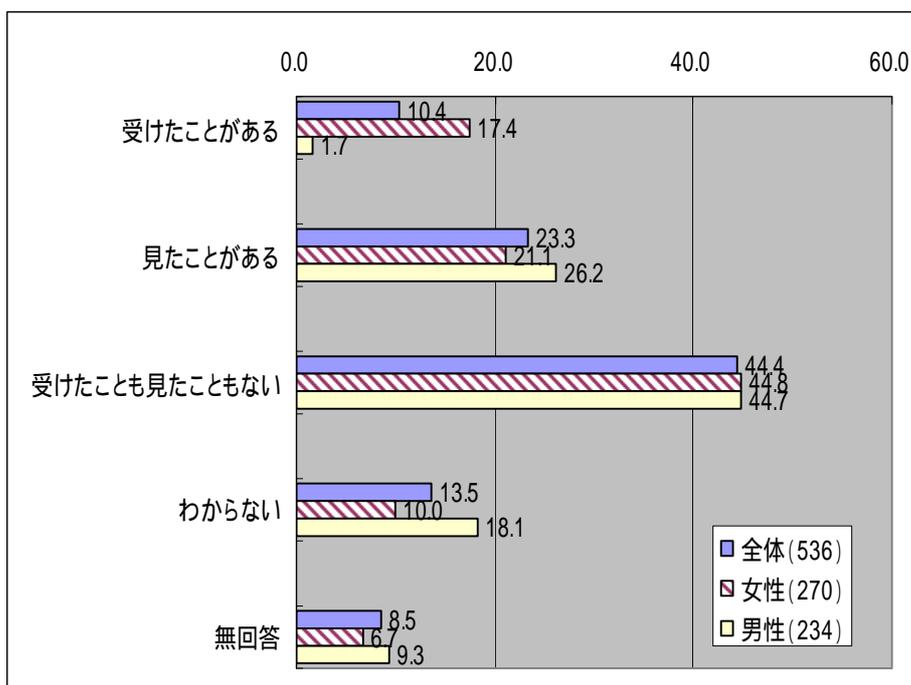
(2) セクシャル・ハラスメントを受けた経験

問18. あなたは、職場や地域、学校などでセクシャル・ハラスメントを受けたことや見たことがありますか。次の中から該当するものをすべて選んでください。

セクシャル・ハラスメント・・・

相手を不快にさせる性的嫌がらせ。ここでは、立場を利用した性的関係の強要やヌードポスターの掲示など職場環境を損なうものを含む。

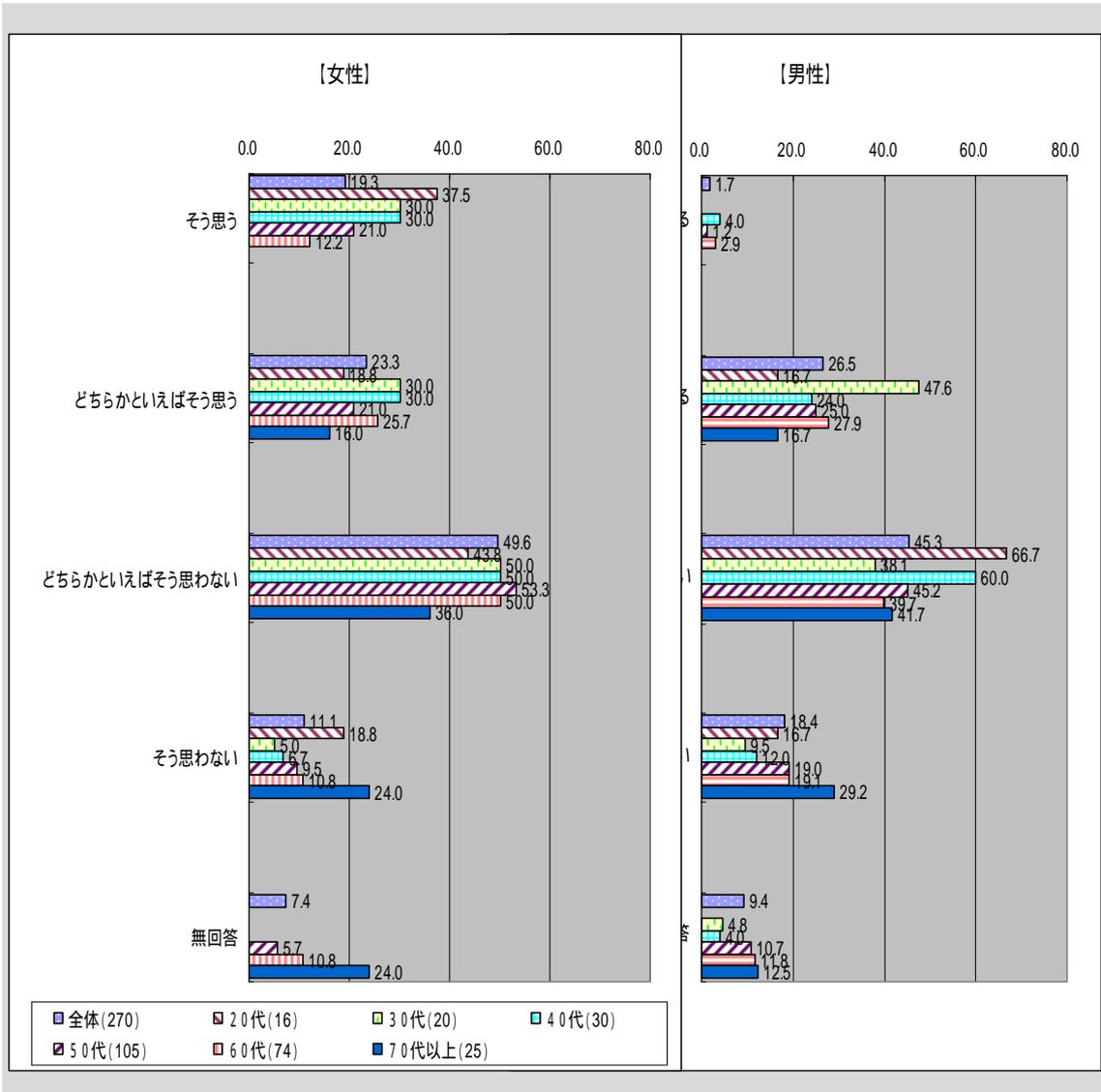
セクシャル・ハラスメントを『受けたことがある』人の割合は、女性が約1割強である。



セクシャル・ハラスメントを受けた経験を聞いたところ、『受けたことがある』と回答している割合は、女性17.4%、男性1.7%であり、女性の方が15.7ポイント高く、被害者の多くが女性であることがわかる。

また、『見たことがある』は、女性21.1%、男性26.2%であり、男女共に2割を超えている。一方、『受けたことも見たこともない』は女性44.8%、男性44.7%であり、ほぼ同一傾向であり、『受けたことがある』『見たことがある』の合計より高い。

【年代別】



『受けたことがある』と回答している割合は、女性では年代があがるにつれて、低くなっているが、最も高い20代（37.5%）では、4割弱の人が被害を受けたことになり、被害者の多くが若い女性であることがわかる。男性では、40代（4.0%）、50代（1.2%）、60代（2.9%）で被害を受けた人が若干いる。

また、『見たことがある』は、男性の30代で最も高い47.6%であり、男性の方が女性より見たことがある人が多い。

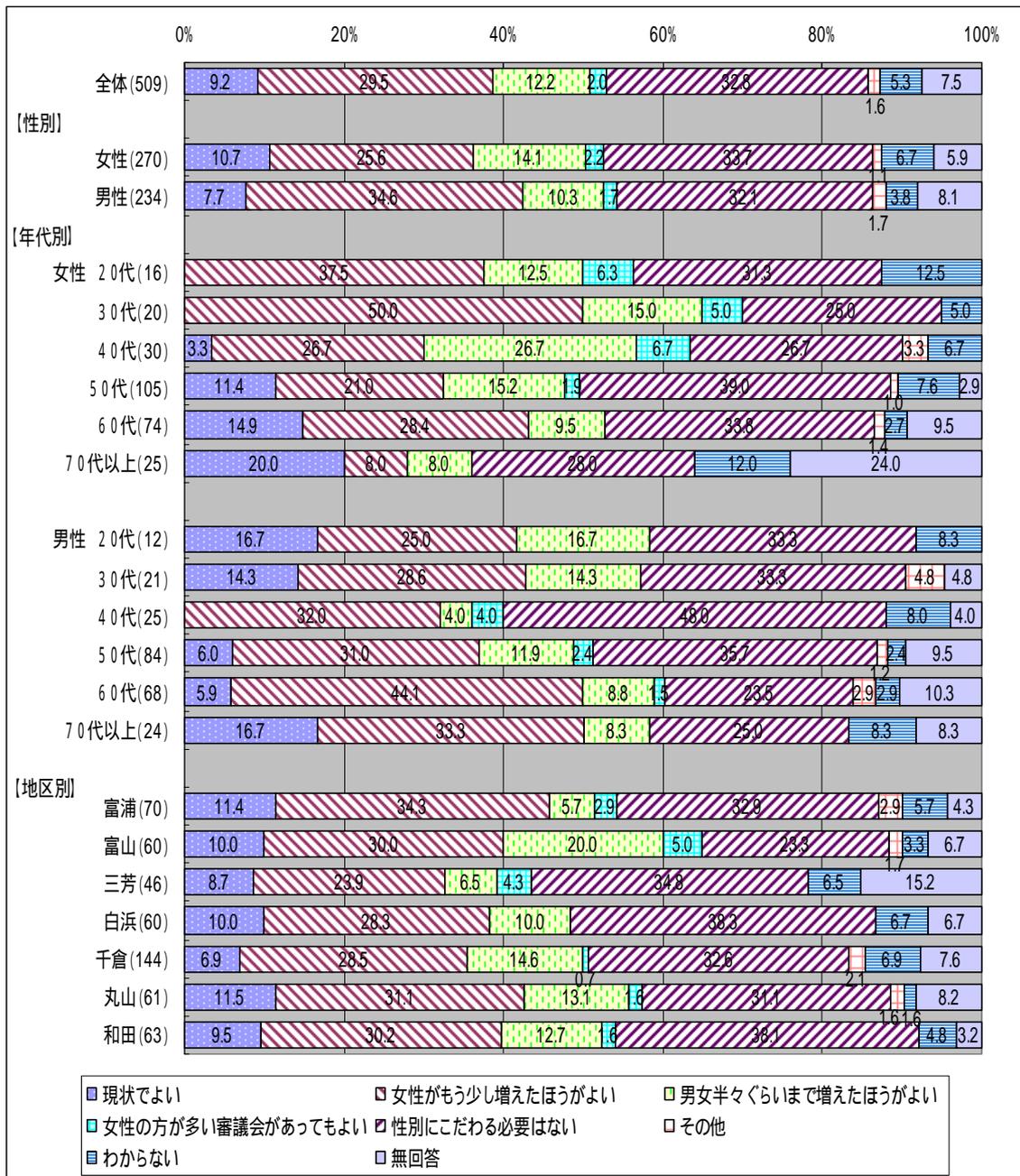
『受けたことも見たこともない』と回答が最も多く、女性49.6%、男性45.3%と女性が男性より4.3ポイント高くなっている。

7. 社会活動等への参画

(1) 審議会等への女性委員の登用

問19. 平成19年4月1日現在の南房総市の審議会等への女性の登用率は「9.8%（307名の委員中30名が女性）」となっております。このことについてどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

審議会等への女性委員の登用率の現状に対し、『性別にこだわる必要はない』と思う人の割合は32.8%である。



審議会等への女性委員の登用について聞いたところ、『性別にこだわる必要はない』() (32.8%) が最も高く、次に、『女性がもう少し増えたほうがよい』(29.5%) の回答が多く、女性の社会活動への理解が伺える。

【年代別】

女性は50代以上、男性の50代以下の年代で、『性別にこだわる必要はない』と回答している割合が高く、中でも女性の50代(39.0%)、男性の40代(48.0%)で最も高くなっている。

一方、女性の30代以下、男性の60代以上では『女性がもう少し増えたほうがよい』と回答している割合が、最も高くなっている。

【地区別】

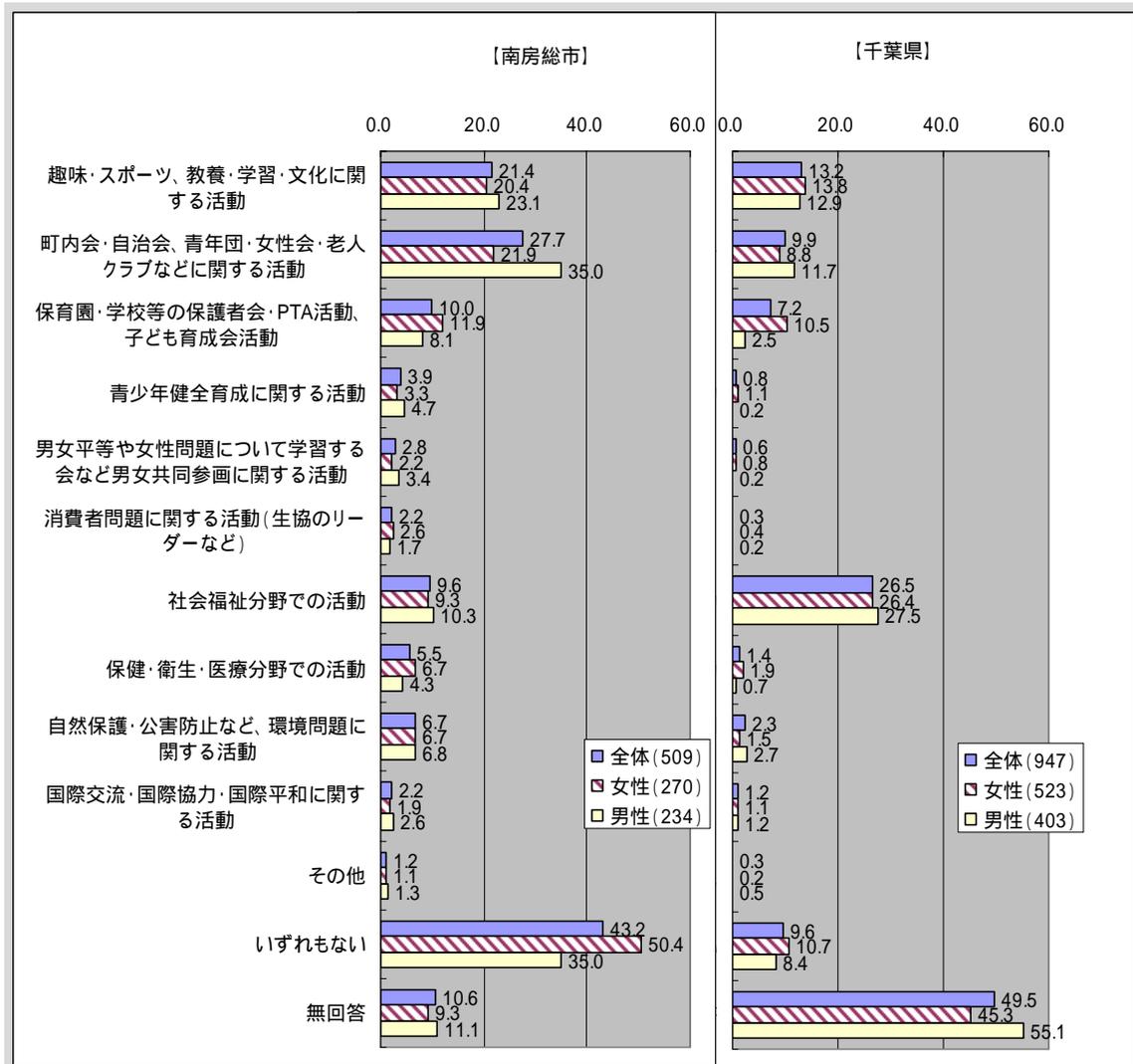
「富浦」「富山」を除くすべての地区で、『性別にこだわる必要はない』と回答している割合が最も高くなっており、中でも「白浜」(38.3%)「和田」(38.1%)と高い割合を占めている。

「富浦」「富山」では『女性がもう少し増えたほうがよい』と回答している割合が最も高くなっている。

(2) 地域活動への参画状況

問20. 次にあげる地域活動の中で、あなたが「現在、企画から実行までの一連の取組み（参画）をしているもの」はどれですか。次の中から該当するものすべてを選んでください。

現在、参画している地域活動は、『町内会・自治会、青年団・女性会・老人クラブなどに関する活動』が最も高くなっている。



地域活動の中で、現在参画している取組みについては、男女とも『町内会・自治会、青年団・女性会・老人クラブなどに関する活動』（女性21.9%、男性35.0%）と回答している割合が最も高くなっており、次いで『趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動』（女性20.4%、男性23.1%）となっている。第3位として、女性は『保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動』（11.9%）であるのに対し、男性は『社会福祉分野での活動』（10.3%）となっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、南房総市では『町内会・自治会、青年団・女性会・老人クラブなどに関する活動』と回答している割合が最も高いのに対し、千葉県は『社会福祉分野での活動』となっている。

また、千葉県では『保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動』（女性10.5%、男性2.5%）において女性の方が8.0ポイント高く、男女に差がみられるのに対し、南房総市では女性11.9%、男性8.1%と、女性の方が若干高いものの、大きな差はみられない。

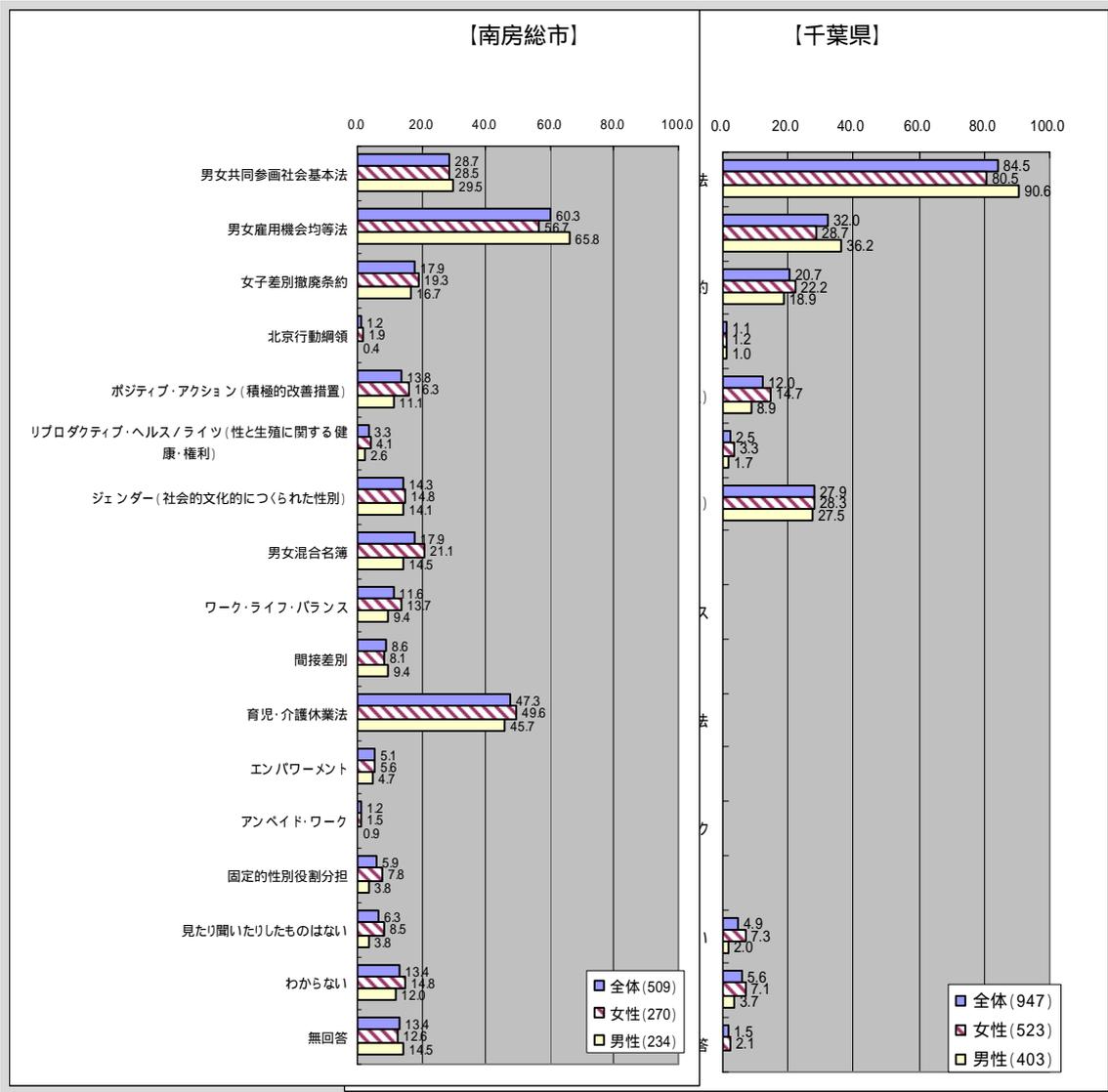
*千葉県調査では、選択肢2「町内会・自治会、青年団・女性会・老人クラブなどに関する活動」が、「町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブなどに関する活動」となっている。

8. 男女共同参画に関する用語の周知度

(1) 用語の周知度

問21. 次にあげる言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。次の中から該当するものすべてを選んでください。

用語の周知度が最も高いのは、『男女雇用機会均等法』である。
なお、全体的に用語の周知度は低い状況である。

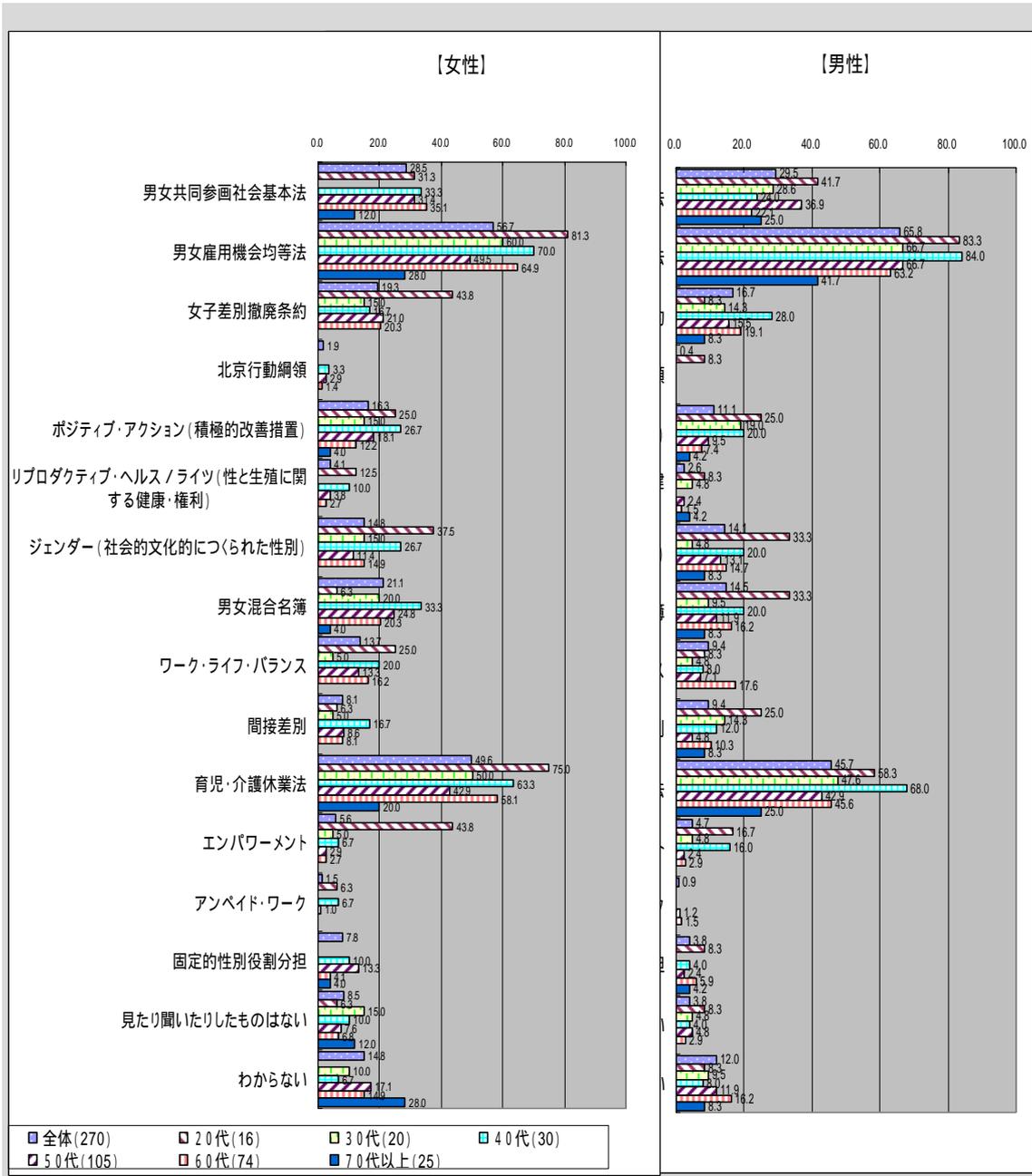


用語の周知度については、男女とも『男女雇用機会均等法』(女性56.7%、男性65.8%)と回答している割合が最も高く、次いで『育児・介護休業法』(女性49.6%、男性45.7%)となっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県と比較すると、『男女共同参画社会基本法』『女子差別撤廃条約』『ジェンダー(社会的文化的につくられた性別)』が、南房総市の方が千葉県より低くなっている。

【年代別】



『男女雇用機会均等法』と回答している割合は高く、中でも男女とも20代・40代では、7割を超えて高くなっている。

『ジェンダー（社会的文化的につくられた性別）』は、女性の20代（37.5%）、男性の20代（33.3%）で高くなっており、男女ともに若い年代層での周知度が高くなっている。

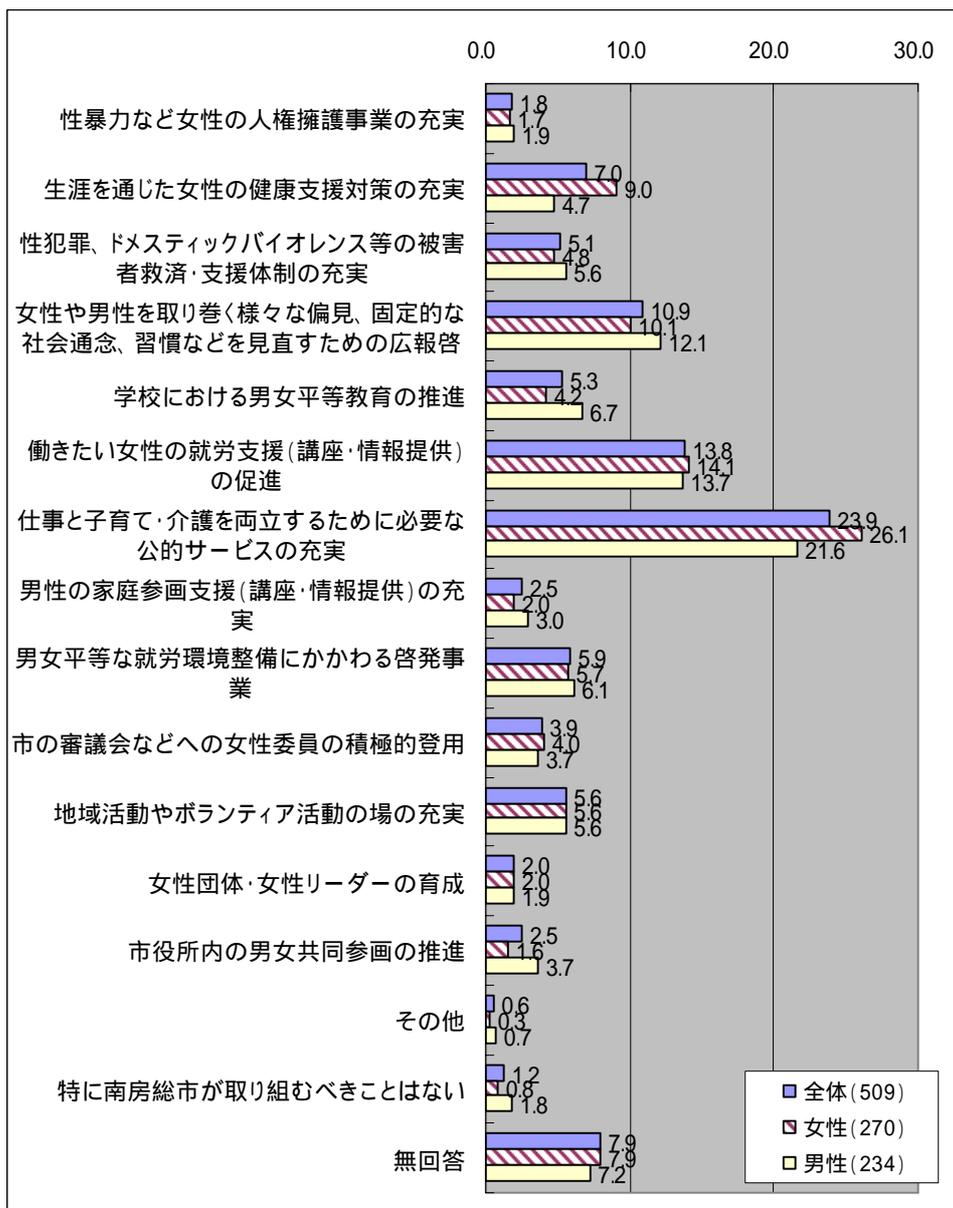
『北京行動綱領』については、女性30代以下・70代以上、男性30代以上、及び『アンペイド・ワーク』の女性30代・60代以上、男性20～40代・70代以上で、見たり聞いたりしたことのある人が全くいないために、周知度が0%である。

9. 南房総市の施策

(1) 男女共同参画社会へ向けての取組み

問22. 男女共同参画社会の実現に向けて、南房総市はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

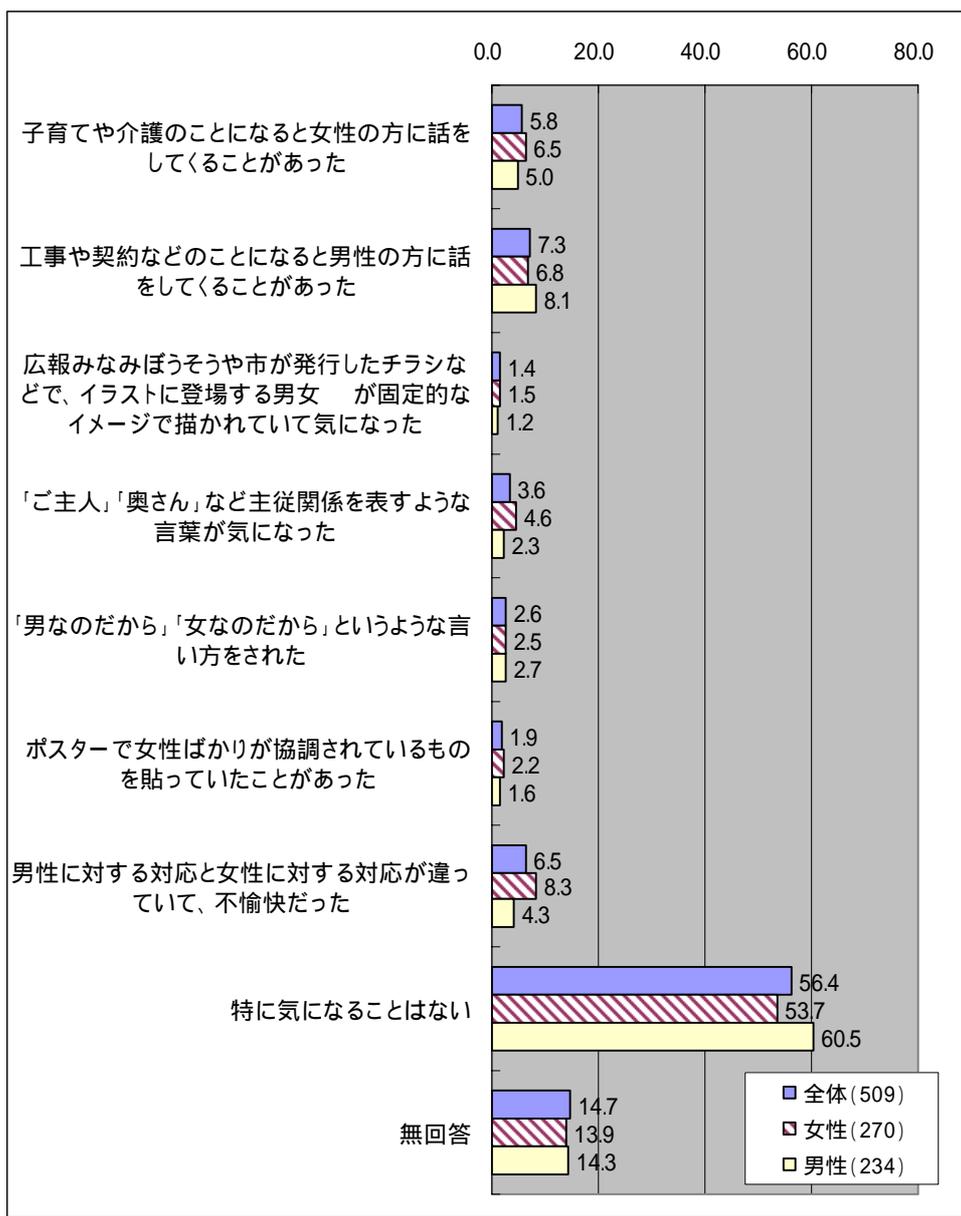
『仕事と子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実』を望む割合は、最も高い。



『仕事と子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実』と回答する割合は、男女とも最も高く、女性26.1%・男性21.6%となっている。次いで、市に望む取組みは、男女とも『働きたい女性の就労支援(講座・情報提供)の促進』が高く、女性14.7%・男性13.7%となっている。

問23．南房総市職員のことについておたずねします。あなたは、男女共同参画に配慮して市職員の対応や業務について、気になることがありますか。次の中から該当するものすべてを選んでください。

『特に気になることはない』と回答する割合は、5割を超えている。
また、全ての項目で市の対応や業務について、意見はほとんどない。



『特に気になることはない』と回答する割合は、男女とも最も高く、女性53.7%・男性60.5%となっている。

自由記述

回答をいただいた484件のうち、男女共同参画に関して多数の意見が寄せられました。誤字・脱字，表現方法等について原文の意見の主旨を損なわないように修正を加えて掲載しました。なお、同じ内容の意見や個人・企業が特定できる場合など好ましくないと判断したものについては，掲載していないものがあります。

男女共同参画について

- ・ 当地区の行政委員（区長・区長代理・組長など）は男しかありません。女はダメという社会通念があるからです。このような所から改めるような活動も必要だと思います。（男性）
- ・ 万事5対5で公平に考慮すれば足りる。（男性）
- ・ 市役所の課長以上にきちんとした意識があるとは思わない。このアンケートより課長以上の意識改革をすることが大事であるとする。（男性）
- ・ 田舎は仕事も何もかも男性が上である考え方が多いので男女共同参画は難しい。（女性）
- ・ ここ2年ほど社会から離れて（無職）いるので現在はどうなっているのかわかりませんが、仕事をする上で性別をどうのこうのと言っている人はあまり見た事がないです。それよりも既得権にあぐらをかいている人の方が問題だと思います。（男性）
- ・ 当然であると思うが各性の特性を考慮すべきである。現在は全て同じにという考えが同権という名のもとに行われつつあるように思う。（男性）
- ・ 男性、女性ともにそれぞれの特性があるのだから（場面によっては）何もかも平等で処理するのはおかしい。（男性）
- ・ 言葉の意味を取り違ええず、活用してほしい。（女性）
- ・ 女性を優遇・優先すべきと考える。そうでなければ、法や制度、施策だけでは解決できないのが日本人の性質である。これは市の責任ではない。（男性）
- ・ 家庭内の日常的な仕事は、誰がやると決め付けず、時間的に出来る人、得意な人、好きな人がやるのが望ましいと思う。（女性）
- ・ 社会概念をくずすことは難しいと思います。このアンケートでも“男女”という言葉が使われていたり回答に男性が常に先に書かれていたりしています。人として相手を思いやりそれぞれの得意な分野で活躍できればよいと思います。（女性）
- ・ 女性は、すぐに男女平等・セクハラなどと言うが、都合の悪い時だけ「女」を主張していないか？（男性）
- ・ 農協・漁協・商工会等の各男女支部長、役員など各分野からの声、横の連絡や意見交換を行えば、市民の視線からみた意見や案が出ると思いますし参考になると思います。（女性）
- ・ 南房総の女性は強い。年齢を重ねるとますます強くなる。家庭の中では男女平等どころか女尊男卑になっている。（男性）
- ・ 男女共同参画＝平等につながっているのか？ 多くの女性は考えていないし、知識を得る努力がされていない様の方が多く思えます。権利と義務の平等が必要ではないでしょうか？（男性）
- ・ 男女平等を盾に行動・発言する女性も時々見られますが、そのような時の対応は難しいです。（女性）

- ・ 男は男の方が、女は女の方が、気がつくこともあり、ケースバイケースである。(男性)
- ・ 子育て特に乳幼児の世話については男がすることについて偏見がある。(男性)
- ・ 女を売りにしている女性は公共の場で使ってほしくない。(女性)
- ・ 男女共同参画とは何か？を具体的に市民にPRする必要がある。(男性)
- ・ 一般的には男女共同参画がベストと思いますが、内容によってはそうならないことも多々あると思う。(男性)
- ・ 男女共に両性の持ち味を生かして、地域、市、国すべて男女共同参画が理想である。(男性)
- ・ だんだんそれらしくなりつつあるような気がします。女性の能力も上がり差があまりないのでは？(女性)
- ・ 周りが騒ぎすぎだと思えます。本人の意思が重要だと思えます。(男性)
- ・ 女性が気軽に参画できる機会を設けてもらいたい。(男性)
- ・ 過剰な女性参画は世の中を危うくする。(男性)
- ・ 大変結構で望んでいるのですが、年代や家庭環境によって違いがあると思えます。学校教育や社会教育によって理想に近づけていただけますよう、よろしくお願いいたします。(女性)
- ・ 男女共同参画は、職業によっていろいろ工夫し、家庭内でよく話し合い、いたわりのこころを持って進めなければ円滑な家庭生活は送れないと思う。男は台所に立つなという古いしきたりにとらわれず進めていければよいと思う。最近の若い方々の家庭は、男女共同参画の姿が見受けられ微笑ましく思う。(女性)
- ・ 早期に男女共同参画社会が実現されることを願います。南房総市は他の市に比べ遅れているところが多々みられます。一部の選ばれた人だけでなく、広く浅く多くの人たちを参画させるべきです。(女性)
- ・ 男女が全く同じように社会に参画するというのは無理がある気がします。それぞれの特性を生かした中でお互いが協力するような体制づくりが理想なのでは？(女性)
- ・ とてもデリケートな問題で2、3週間では考えがまとまりません。ただこうした問題に関してアンケートを取りましょうというアプローチがあったことはとてもウキウキしています。いろいろ勉強したい。学習の場が欲しいと思いました。(女性)
- ・ 昔の考えかもわからないが、男は男、女は女の役割でいいと思う。(女性)

仕事に関することについて

- ・ 男が出来る仕事、女性にしか出来ない仕事があるのですべてで男女が同じ仕事をする必要はないのではないですか。男女どちらでも問題なくできる仕事は女性の進出を待っています。(男性)
- ・ ワーク・ライフ・バランスの実現のため育児・介護休業をしっかりとれるようにしてください。(女性)
- ・ 男女不平等だと思えることが良くある。女だからやらなければいけないことが多すぎる。有給をとると「女はいいよねー」と言われるのがつらい。きちんとした制度を利用しているだけなのに。(女性)
- ・ 時間が余っています。仕事でもボランティアでも参加したい。(女性)
- ・ 職場で男女が同じ仕事をする場合、それぞれの考え及び知識の向上が必要だと思います。(男性)
- ・ 性別に関わらず優秀な人は積極的に採用すべきだと思う。現にアジアで伸びてきている国

は、女性の就業率が高いような気がします。使われる側としても無能な男性上司の下で働くより、優秀な女性上司の下で働きたいものです。(男性)

- ・ 経験を重ねてきた女性よりも、男性であるということで入社わずかであっても優遇されている現実はまだまだあります。(女性)
- ・ 仕事をもっている以上責任をもって努めたいと考えています。経済的な理由から今仕事をやめることは不可能です。ただ、生活の大半が仕事におわれている。ゆとりをもって仕事も自分の生活も送りたいが不可能な状態。今転職できるならばと考えるが、この歳では職種も限られ、いや、ほとんどないのでは...(女性)
- ・ もっと女性が働く場を作ってほしい。(女性)
- ・ 年休がとれない。(女性)
- ・ 男性が育児休暇をとれる環境が必要。(女性)
- ・ 仕事については、結婚・出産で職場を離れてしまう女性がほとんどです。この辺は解決しないと仕事での男女共同参画は進まないでしょうね。(男性)
- ・ 女性の正社員化。(男性)
- ・ 女性が働きやすい職場を増やしてもらいたい。(男性)
- ・ 理想として男性も女性もすべての職業にというのはわかりますが、それぞれ適正があると思います。(男性)
- ・ 男女の平均年齢の差は大きすぎると思う。男に仕事の重荷が大きすぎるのではないか？家庭も社会も。(男性)
- ・ 男と女が同じ給与では、女性は自活出来る為、家庭に残らない 結婚しない 人口減少 少子化につながる。男が一人で家庭を維持できるだけの給料を取るべき。(男性)
- ・ 仕事の面については、内容によって違いがありますので家庭でよく話し合いお互いにいたわり合う心を持っていければよいと思います。(女性)
- ・ 働きながら育児、介護のできる社会が少なすぎるというかほとんどない。賃金も安いので生活のためにと働いても税金や介護の費用となってしまう。男女を問わず安心して働ける環境を作ってほしい。監督署と協力して各会社へ行政から指導すべきである。(女性)
- ・ 子どもを見てもらう家族がいれば、ずっと職業を続けても良いと思います。但し帰宅時間が問題で、夕食の仕度がしっかりできることと、子どもと話しができる時間帯があることが重要です。(女性)
- ・ 子育てしながら働ける環境が整うといいなと思います。
- ・ 男性の方が出世する時代だといわれていますが、女性の仕事の内容、勤務、時間外勤務等から考えて、すべて平等とはならないものと考えます。
- ・ 土日、夜間保育の充実。どんな職業についても女性が安心していつでも働けるように保育を充実してほしい。現状は、平日昼間のみの業種しか選べない。もっとすべてに活躍の場を。(女性)

教育に関することについて

- ・ 男性への教育が大事である。女性は本能で学ぶが男性はエゴで学ぶことを忘れてはならない。(男性)
- ・ 都会だから田舎だからに関わらず、よい教育は必要です。でも実際、都市部と地方の格差は広がっていて、中には子どもが小さい時は、田舎で暮らし、ある程度の年齢になったら都会に戻るという人も多い。一つだけ言える事は、優秀な人は都市部に集まってきている

ことだけは間違いないですね。(男性)

- ・ 幼稚園、保育園、小学校低学年より、せめて週1時間でも暴力・ごみのポイ捨てがなぜいけないか、命の大切さ等を教えてほしいと思います。(男性)
- ・ 名簿、運動会の徒競走など男女差なく一律にすること。(男性)
- ・ 親がもっと勉強すべきである。もっと先生を信頼してあげること。(男性)
- ・ 思いやりのある人間に心の教育(道徳・倫理感)を大切に!!(男性)
- ・ 学校における教育についてトップ(校長)により学童の規律が違って来る。挨拶の習慣など基本的なことを指導する教育者これが教育の根本であると思います。(男性)
- ・ 性別に関わらず、基本的な人間性を判断できるような教育をお願いします。(女性)
- ・ 親御さんはもとより、先生が尊敬されていない現実がよくない。(女性)
- ・ 家庭教育、学校教育、社会教育それぞれの場において教育や美身を身につけていかなければならず、やはり女は女らしく、男は男らしく指導すべきかと思います。(女性)
- ・ 自分が小学校の時セクハラをする男の先生がいてイヤな思いをした。(女性)
- ・ 男女同一の教育は自分もそうでしたがよいと思います。ただ性別によって、男には男の女には女のそれぞれ適した教育とか仕事があります。そうしたものも大切にすることによって男女同一教育が生きてくると思います。(男性)
- ・ 子育てへの経済的支援の充実。保育料の値下げ、教育機関での実費の減額等が進めば男性がもっと子育てへ参加できると思う。(男性)
- ・ 保育園の預かる・預からないの基準をもう少しゆるくしてほしい。微熱程度ならば保育所で見ることはできないのでしょうか?(女性)
- ・ 保育園又は子どもの面倒を見てくれる場所を増やしてほしい。(女性)
- ・ 学童保育を「市」でもっと充実させてほしい。保育時間ももっと延長したら働きやすくなる。
- ・ 学ぶことは生きていくことに必要です。(女性)
- ・ 人の考え方は、育った家庭・学校教育によってつくりあげられると思いますので、先ず家庭からそして教育の場で理想に向かって進めていただけたらよいと思います。(女性)
- ・ 最近はモラルに欠ける教員が多い、先日の北海道の事件のように女性を商品化する者も増えている。生徒の教育よりも教員の教育を見直す時期ではないか。(女性)
- ・ この地域に住んでおりますと18歳をすぎたら教育を受けようと思ったら県北なり上京なりして実家を離れる場合が多いです。私は母親として18歳までに親子関係を完成させていと思いつつ育てました。父親はいつまでも親としていられると思ったようです。人間対人間としての関係をつくれぬ父(男)が多いように思います。(女性)
- ・ 女性が社会に出たことにより、子どもの教育がおろそかになり大変な世の中になってしまったと痛感しています。女性が子どものしつけ等きっちり行うことが重要と考えます。(女性)
- ・ 子どもは皆、結婚して家にはいませんが、学校でのいじめの問題を耳にすると悲しく思います。学校で教科書だけの教育ではなく人間としての教育を教師ともどもやっていったらいいと思います。これは男女共同参画とは違うと思いますが…(女性)

その他

- ・ 南房総市の種族は平穏無事な環境に存在している。大都市の穴場（秘境）的で文化の遅れをとる。それ故、市の意識を高度化する必要がある。市長に期待する。（男性）
- ・ 女性蔑視は、自分はあまりないと思いますが、日本の女性社会での特有な「おつぼね」的な考え方には、参ってしまうので、この辺を考え直してほしい。（男性）
- ・ 専業主婦を軽く見ることは、家庭崩壊につながる。（女性）
- ・ 大切なことですが、もっと違うことにもアンケートしたらどうかと思います。（男性）
- ・ アンケート大変よくできていると思います。市のためにがんばってください。（男性）
- ・ 私は船員です。普段家に居ないので家庭内のことは（子育ても・家事も）妻がやるべきだと思います。（男性）
- ・ 働いていなくても保育園にあずけられたらよいと思います。（女性）
- ・ 個人的なことですが、先日、初孫が生まれました、若いパパ・ママが仕事と育児が余裕を持って出来る様、家族、そして行政の力で何とかしてあげたい。そして、自分たちの老後のため、今何が出来るかを思い考える必要がある。（女性）
- ・ 若いお母さんにもっと教育の場を・・・親が親らしくならない気がします。若い親が自分第1に楽しんでいては、子どもたちが「大人」「子ども」の違いを感じずに育ってしまっている気がします。それは平等とは違いますよね。（女性）
- ・ 余り市に頼らず自分自身が考え判断し、実行することが賢明だと思います。（男性）
- ・ 指導者不足 町の活性化に希望を見出せる指導者不足、若い人の考えがわからない。（女性）
- ・ どのような市にしていくのかという方向性を示してください。（男性）
- ・ 人権的には平等であるべきですが性別は違います。お互いを尊重したい。（女性）
- ・ 市の職員は倫理をしっかりと見につけてください。女性職員の意識が男性に頼っているのでは。仕事に来る服装でもないような人もいてあまり良い印象ではありません。女性職員の教育をお願いいたします。（女性）
- ・ このアンケート結果を広報紙などへ掲載していただきたい。（女性）
- ・ このアンケートを届いてから投函するまでの期間が少ないですね。難しいテーマなのでもっと余裕を持たせてほしいと思いました。（女性）

南房総市男女共同参画市民意識調査票

回答欄

男女平等に関する考え方についておたずねします。

問1. あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次の(ア)～(キ)のそれぞれについてあなたの考えに最も近いものを1つずつ選んでください。

	男性が 非常に優 遇される	どちらか が優遇さ れど男性 に比べ	平等	どちらか が優遇さ れど女性 に比べ	女性が 非常に優 遇される	どちらとも いえない
(ア) 社会全体で	1	2	3	4	5	6
(イ) 家庭のなかで	1	2	3	4	5	6
(ウ) 職場のなかで	1	2	3	4	5	6
(エ) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(オ) 政治の場で	1	2	3	4	5	6
(カ) 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
(キ) 社会通念・慣習で	1	2	3	4	5	6

問1

問2. 国や地方自治体では、男女平等や男女共同参画を推進していこうという動きがありますが、あなたはこうした動きに関心がありますか。次の中から1つ選んでください。

問2

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 関心がある | 2. 関心がない | 3. わからない |
|----------|----------|----------|

問3. 今後、あなたが、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことは何でしょうか。次の中から1つ選んでください。

問3

- | |
|--|
| 1. 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
2. 性に基づく様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること
4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
5. 行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
6. その他()
7. わからない |
|--|

問4. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。

問4

- | | | |
|---------|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 2. そう思わない | 3. どちらともいえない |
|---------|-----------|--------------|

家庭生活と職業についておたずねします。

問5. あなたは現在、結婚していますか。次の中から1つ選んでください。

問5

- | | | |
|--|-------------------|----------------|
| 1. 結婚している(未婚だがパートナーと暮らしている方を含む)
(問6へ) | 2. 離別・死別
(問9へ) | 3. 未婚
(問9へ) |
|--|-------------------|----------------|

問6. 問5で「1. 結婚している」とお答えの方に伺います。あなた方ご夫婦は、共働きをしていますか。(自営業・パート・内職含む)次の中から1つ選んでください。

問6

1. 共働きをしている 2. 共働きをしていない

問7. 問5で「1. 結婚している」とお答えの方に伺います。あなたのご家庭では、次の(ア)～(キ)にあげるような日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。次の中から1つずつ選んでください。

問7

	て主に いなる 夫が 行っ	て主に いなる 妻が 行っ	てく夫 いら婦 るいと でも同 行っじ	る人主 が行そ つの他 て他の いの	者子 はども いなや ない高 齢
(ア) 食事の支度・あとかたづけ	1	2	3	4	
(イ) 掃除・洗濯	1	2	3	4	
(ウ) 食料品・日用品等の買物	1	2	3	4	
(エ) 役所等への用事・書類の作成	1	2	3	4	
(オ) 乳児・幼児の世話(現在、または過去に)	1	2	3	4	5
(カ) 子どもの学校行事等への参加	1	2	3	4	5
(キ) 高齢者の世話(介護)	1	2	3	4	5

問8. 問5で「1. 結婚している」とお答えの方に伺います。では、あなたは理想として、次の(ア)～(キ)にあげるような日常的な仕事は、どのように分担するのがよいと思いますか。次の中から1つずつ選んでください。

問7の(オ)～(キ)で5を選んだ方は、この問いの(オ)～(キ)においても5を選んでください。

問8

	ほ主に うが夫 がよが い行 う	ほ主に うが妻 がよが い行 う	ほく夫 うら婦 がいと よでも い行同 うじ	が人主 よが行 いとそ うのほ う他の うの	者子 はども いなや ない高 齢
(ア) 食事の支度・あとかたづけ	1	2	3	4	
(イ) 掃除・洗濯	1	2	3	4	
(ウ) 食料品・日用品等の買物	1	2	3	4	
(エ) 役所等への用事・書類の作成	1	2	3	4	
(オ) 乳児・幼児の世話	1	2	3	4	5
(カ) 子どもの学校行事等への参加	1	2	3	4	5
(キ) 高齢者の世話(介護)	1	2	3	4	5

問9. あなたの職業は次の中でどれにあたりますか。次の中から1つ選んでください。

問9

自営業主	1. 農林漁業(農業、林業、畜産業、漁業などの自営主) 2. 商工サービス業(商店、飲食店、理髪店、修理業など) 3. 自由業(弁護士、開業医、芸術家など)
自営業の家族従業者	4. 農林漁業(農業、林業、畜産業、漁業など) 5. 商工サービス業(商店、飲食店、理髪店、修理業など) 6. 自由業(弁護士、開業医、芸術家など)
勤務者	7. 管理職(民間会社・団体・官公庁の課長級以上、大学の講師以上、学校の教頭以上) 8. 専門・技術職(技術研究員、勤務医師、看護師、教員、保育士、美容師など) 9. 事務職(一般事務員、営業員など) 10. 労務職(一般工員、建築作業員、運転手など) 11. パート、アルバイト、内職など
無職	12. 専業主婦・専業主夫 13. 学生 14. その他の無職(年金、金利生活者など)
その他	15. その他 上記1～14までに該当しない方は具体的に ()

問10. あなたは、一般的に女性が職業をもつことについて、どのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

問10

<p>1. 女性は職業をもたない方がよい</p> <p>2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい</p> <p>3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい</p> <p>4. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい</p> <p>5. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい</p> <p>6. その他()</p> <p>7. わからない</p>
--

問11. あなたは、今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

問11

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 家庭内での役割分担について、よく話し合うこと
4. 社会の中で男性による家事・子育て・介護・地域活動についての評価を高めること
5. 男性自身が自らの働き方を見直すこと
6. 男性が家事・子育て・介護・地域活動に関心が持てるような啓発や情報提供を行うこと
7. 行政が男性の家事・子育て・介護などの技能を高めるような市民講座を開催すること
8. 行政が男性の子育て・介護、地域活動を行うための仲間づくり(ネットワーク作り)を支援すること
9. その他()
10. わからない

問12. 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

問12

1. 代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること
2. 育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること
3. 地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること
4. 職場内に保育施設を整備すること
5. 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
6. 残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること
7. 子育てや介護などを理由に退職した者をもとの職場で再雇用する制度を導入すること
8. 男性中心の職場運営を見直すこと
9. 賃金や昇進などの男女間格差をなくすこと
10. パートタイマーなど非正規職員の労働条件を改善すること
11. 職業上、必要な教育・訓練等の機会や内容を充実すること
12. 男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること
13. その他(具体的に:)
14. わからない

少子・高齢化についておたずねします。

問13. あなたは、出生率が低下している原因は何だと思えますか。次の中から3つまで選んでください。

問13

1. 子育てに経費がかかりすぎる
2. 子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み(雇用条件・保育等)が整っていない
3. 女性の高学歴化や社会進出により結婚年齢が上昇した
4. 子どもは少なく産んで、十分手をかけて育てたいという人が増えた
5. 子どもより仕事や余暇等を充実したいと考える人が増えた
6. 結婚しない人が増えた
7. 出産・子育てに対する男性(夫)の理解・協力が足りず、女性(妻)の精神的・肉体的負担が大きい
8. 住宅事情が悪い
9. 楽をしたい、子育てが面倒という人が増えた
10. その他()

問14. あなたは、ご自分の老後について、不安に思うことがありますか。次の中から3つまで選んでください。

問14

1. 働きたくても仕事がないこと
2. 配偶者(パートナー)に先立たれること
3. 子どもが世話してくれるかどうかわからないこと
4. 適当な話し相手がないこと
5. 適当な趣味がないこと
6. 介護してくれる人がいるかどうかわからないこと
7. 生活費のこと
8. 健康のこと
9. 住居のこと
10. その他()
11. 特に不安はない
12. 考えたことはない

問15. あなたが高齢になって、もし介護が必要になった時はどうなされますか。現状のことも含めて1つ選んでください。

問15

1. 配偶者(パートナー)に世話をしてもらう
2. 子どもや子どもの家族に世話をしてもらう
3. その他の親族に世話をしてもらう
4. 友人・知人に世話をしてもらう
5. ホームヘルパー(家事援助者)に世話をしてもらう
6. 老人ホーム(介護つき)に入る
7. 病院に入院する
8. その他()

教育についておたずねします。

問16. あなたは、子どもの教育における男女平等の意識についてどう思いますか。次の(ア)～(イ)のそれぞれについて1つずつ選んでください。

	そう 思う	えど ばち そら うか 思 う う い	なえど いばち そら うか 思 わ い	そう 思 わ な い	えど ち ら と も い
(ア)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい	1	2	3	4	5
(イ)性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせる方がよい	1	2	3	4	5

問16

女性に対する人権問題についておたずねします。

問17. あなたは、次の女性に対する問題についてどのように思いますか。次の(ア)～(キ)のそれぞれについてあなたの考えに最も近いものを1つずつ選んでください。

	そう 思う	えど ばち そら うか 思 う う い	なえど いばち そら うか 思 わ い	そう 思 わ な い	えど ち ら と も い
(ア)相手の意に反する性的嫌がらせ(言動)はすべてセクシャル・ハラスメント(セクハラ)だと思ふ	1	2	3	4	5
(イ)ささいなことまでセクハラと言うのは、職場の人間関係をギクシャクさせると思ふ	1	2	3	4	5
(ウ)女性のヌード雑誌など女性の体を商品のように扱うのは、女性への人権侵害だと思ふ	1	2	3	4	5
(エ)金銭等を介する援助交際は女性への人権侵害だと思ふ	1	2	3	4	5
(オ)女性が望まない妊娠をしてしまうのは、はっきり意思表示できない女性自身に問題があるからだと思ふ	1	2	3	4	5
(カ)女性が望まない妊娠をしてしまうのは、相手の意思を尊重しない男性に問題があるからだと思ふ	1	2	3	4	5
(キ)男性が女性に暴力を振るうことは、女性を力で支配する人権侵害だと思ふ	1	2	3	4	5

問17

問18. あなたは、職場や地域、学校などでセクシュアル・ハラスメントを受けたことや見たことがありますか。次の中から該当するのすべてを選んでください。

セクシュアル・ハラスメント・・・相手を不快にさせる性的嫌がらせ。ここでは、立場を利用した性的関係の強要やヌードポスターの掲示など職場環境を損なうものを含む。

問18

- | | |
|------------------|------------|
| 1. 受けたことがある | 2. 見たことがある |
| 3. 受けたことも見たこともない | 4. わからない |

社会活動等への参画についておたずねします。

問19. 平成19年4月1日現在の南房総市の審議会等への女性の登用率は「9.8% (307名の委員中30名が女性)」となっております。このことについてどのように思いますか。次の中から1つを選んでください。

問19

- | |
|-----------------------|
| 1. 現状でよい |
| 2. 女性がもう少し増えたほうがよい |
| 3. 男女半々くらいまで増えたほうがよい |
| 4. 女性の方が多いい審議会があってもよい |
| 5. 性別にこだわる必要はない |
| 6. その他() |
| 7. わからない |

問20. 次にあげる地域活動の中で、あなたが「現在、企画から実行までの一連の取組み(参画)をしているもの」はどれですか。次の中から該当するものすべてを選んでください。

問20

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動 |
| 2. 町内会・自治会、青年団・女性会・老人クラブなどに関する活動 |
| 3. 保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動 |
| 4. 青少年健全育成に関する活動 |
| 5. 男女平等や女性問題について学習する会など男女共同参画に関する活動 |
| 6. 消費者問題に関する活動(生協のリーダーなど) |
| 7. 社会福祉分野での活動 |
| 8. 保健・衛生・医療分野での活動 |
| 9. 自然保護・公害防止など、環境問題に関する活動 |
| 10. 国際交流・国際協力・国際平和に関する活動 |
| 11. その他(具体的に:) |
| 12. いずれもない |

男女共同参画に関する用語についておたずねします。

問21. 次あげる言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。次の中から該当するものすべてを選んでください。

問21

1. 男女共同参画社会基本法
2. 男女雇用機会均等法
3. 女子差別撤廃条約
4. 北京行動綱領
5. ポジティブ・アクション(積極的改善措置)
6. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康・権利)
7. ジェンダー(社会的文化的につくられた性別)
8. 男女混合名簿
9. ワーク・ライフ・バランス
10. 間接差別
11. 育児・介護休業法
12. エンパワーメント
13. アンペイド・ワーク
14. 固定的性別役割分担
15. 見たり聞いたりしたものはない
16. わからない

問21

南房総市の施策についておたずねします。

問22. 男女共同参画社会の実現に向けて、南房総市はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

問22

1. 性暴力など女性の人権擁護事業の充実
2. 生涯を通じた女性の健康支援対策の充実
3. 性犯罪、ドメスティックバイオレンス等の被害者救済・支援体制の充実
4. 女性や男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、習慣などを見直すための広報啓発事業(講座・講演会・情報提供)の充実
5. 学校における男女平等教育の推進
6. 働きたい女性の就労支援(講座・情報提供)の促進
7. 仕事と子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実
8. 男性の家庭参画支援(講座・情報提供)の充実
9. 男女平等な就労環境整備にかかわる啓発事業
10. 市の審議会などへの女性委員の積極的登用
11. 地域活動やボランティア活動の場の充実
12. 女性団体・女性リーダーの育成
13. 市役所内の男女共同参画の推進
14. その他()
15. 特に南房総市が取り組むべきことはない

ドメスティック・バイオレンス...英語の「domestic violence」をカタカナで表記したものです。略して「DV」と呼ばれることもあります。夫や恋人など親密な関係にある、又はあった男性から女性に対して振るわれる暴力。

問23. 南房総市職員のことについておたずねします。あなたは、男女共同参画に配慮して市職員の対応や業務について、気になることがありますか。次の中から該当するものすべて選んでください。

問23

1. 子育てや介護のことになると女性の方に話をしてくることがあった
2. 工事や契約などのことになると男性の方に話をしてくることがあった
3. 広報みなみぼうそうや市が発行したチラシなどで、イラストに登場する男女が固定的なイメージで描かれていて気になった
4. 「ご主人」「奥さん」など主従関係を表すような言葉が気になった
5. 「男なのだから」「女なのだから」というような言い方をされた
6. ポスターで女性ばかりが協調されているものを貼っていたことがあった
7. 男性に対する対応と女性に対する対応が違って、不愉快だった
8. 特に気になることはない

今までお伺いしたことを統計的に分析するために、あなた自身のことについておたずねします。

F1 あなたの性別はどちらですか。次の中から1つ選んでください。

1. 男性 2. 女性

F1

F2 あなたの年齢はおいくつですか。次の中から1つ選んでください。

1. 20～29歳 2. 30～39歳 3. 40～49歳
4. 50～59歳 5. 60～69歳 6. 70歳以上

F2

F3 現在、南房総市のどちらにお住まいですか。次の中から1つ選んでください。

1. 富浦地区 2. 富山地区 3. 三芳地区 4. 白浜地区
5. 千倉地区 6. 丸山地区 7. 和田地区

F3

F4 お子さんはいますか。次の中から1つ選んでください。

1. いる 2. いない

F4

男女共同参画に関してご意見がありましたらお書きください。
男女共同参画について：

仕事に関することについて：

教育に関することについて：

その他：

最後までご記入いただきまして、誠にありがとうございました。
同封の返信用封筒で、10月19日(金)までにご投函下さい。